

地域安心生活支え合い事業

住民同士の 支え合い 活動事例集

金沢市
54地区
69 事例掲載



はじめに

- 近年、家族構造の変化と多様化により、金沢市においても、福祉ニーズが複合化・複雑化しています。地域や家族など共同体としての「つながり」が弱まっている現状をふまえ、人と人、人と社会がつながり支え合う新たなアプローチが求められています。国の政策では、「地域共生社会」の実現に向け、生活に身近な地域で住民による支え合いと公的支援が連動した包括的な支援体制の構築を目指しています。
- 本市では、金沢市地域福祉計画 2013 で「新たな共助の構築」を重点目標の一つに掲げ、その具現化事業として平成 25 年度からモデル地区で「地域安心生活支え合い事業」をスタートさせました。その後、平成 28 年度から順次取組み地区を拡大し、「金沢市地域福祉計画 2018」では、基本目標「地域支え合いネットワークづくりの推進」として引き継がれ、令和元年度には 38 地区、令和3年度には当初の計画どおり全54地区でそれぞれ地域の特徴に応じた取組みが展開されています。
- 「地域安心生活支え合い事業」は、住民自身が地域のニーズを丁寧に掘り下げ、みんなが共感し納得しながら進んで来ました。また、コロナ禍にも関わらず、住民の皆さんが苦慮しながらも「人と人とのつながりを絶やしてはいけない」という思いで創意工夫され、話し合いながら取組みを進めてきました。それぞれの地域に根付いたこの取組みに住民が自分ごととして参加する。そのような暮らし方自体がみんなの生き甲斐や幸せにつながることを願いこの事例集を作成しました。
- 最後に、この事例集を作成するにあたり、取材にご協力いただいた皆様に厚くお礼を申し上げます。

令和4年3月

第1層生活支援コーディネーター
社会福祉法人金沢市社会福祉協議会
地域福祉課長 北脇 宜和

目次

◆はじめに…………… 1

◆事例集

【きしかわ圏域】

◇森本地区 三谷おでかけサロン……………3

【ふくひさ圏域】

◇小坂地区 非常時を見据えた日頃の見守り関係構築……………5

◇千坂地区 千坂地区社会福祉協議会「おたすけ隊」……………7

【かすが圏域】

◇浅野地区 京町ミニサロン……………9

◇浅野地区 錦水シニアクラブ……………11

◇浅野地区 ダイナスティサロン……………13

◇浅野地区 浅野地区支え合い委員の設置……………15

◇森山地区 森山ラジオ体操の会……………17

◇森山地区 移動販売車「とくし丸」による買い物支援……………19

◇夕日寺地区 夕日寺地区各町会ボランティアチーム……………21

【おおてまち圏域】

◇松ヶ枝地区 コミュニティカフェ……………23

◇此花地区 このはなサロン市……………25

◇瓢箪地区 つなごう瓢箪……………27

◇馬場地区 町会単位の支え合い活動の企画促進……………29

【さくらまち圏域】

◇材木地区 空き家や屋外を活用した集いの場の創出……………31

◇味噌蔵地区 町会単位の見守り・支え合い体制の充実……………33

【たがみ圏域】

◇犀川地区 山間地での居場所づくり……………35

◇湯涌地区 買い物支援と生活支援の仕組みづくりの検討……………37

◇浅川地区 高齢者アンケートによる支え合い活動の提案……………39

【もろえ圏域】

◇諸江地区 ほっとネットもろえ……………41

◇浅野川地区 ゆみとり支え合いネットワーク……………43

◇浅野川地区 蚊爪お助け隊……………45

◇川北地区 住民ボランティアグループ……………47

【くらつき圏域】

◇鞍月地区 鞍月新町福祉サポート隊……………49

◇鞍月地区 くらつきかふえ……………51

◇粟崎地区 ささえ愛隊・粟崎……………53

◇大野地区 つなげ隊おおの……………55

◇金石地区 みやのこしサポート隊……………57

◇金石地区 お茶会……………59

【えきにしほんまち圏域】

◇大徳地区 地域支援ボランティアすけっと隊……………61

◇戸板地区 高齢者アンケートによる支え合い活動の提案……………63

【かみあらや圏域】

◇押野地区 ふれ合いカフェ光陽……………65

◇西南部地区 地区に広がるコミュニティカフェ……………67

◇三和地区 三和地区生活支援応援隊（仮称）……………73

【ひろおか圏域】

◇長町地区 いーねカフェ……………75

◇長土堀地区 高齢者アンケートによる支え合い活動の提案……………77

◇芳斉地区 芳斉ボランティアの会……………79

◇長田地区 長田てつだい隊……………81

◇西地区 高齢者の見守り活動……………83

【きたづか圏域】

◇米丸地区 あんやと会……………85

◇米丸地区 あんやとカフェ……………87

◇二塚地区 移動スーパーでミニサロン……………89

◇安原地区 地域貢献と美化活動……………91

【とびうめ圏域】

◇新竪地区 そくさいカフェこまちなみ……………93

◇新竪地区 買い物んいくまい会……………95

◇小立野地区 見守りキーホルダーと地域行事パンフレット（仮称）づくり……………97

【みつくちしんまち圏域】

◇十一屋地区 コミュニティカフェいんぎ楽っと……………99

◇菊川地区 コミュニティカフェてと手とて……………101

◇菊川地区 野菜市……………103

◇崎浦地区 崎浦さわやか隊……………105

◇内川地区 支え合いの仕組みづくりの検討……………107

【ながさか圏域】

◇泉野地区 すこやかカフェ……………109

◇長坂台地区 結ネットの活用……………111

【いずみの圏域】

◇野町地区 憩いの場……………113

◇野町地区 見守り電球……………115

◇野町地区 避難行動要支援者マップ……………117

◇中村地区 いこいの広場……………119

◇弥生地区 アンケート調査による助け合いの仕組みづくり……………121

◇新神田地区 災害時に備えた日頃の見守り関係……………123

【ありまつ圏域】

◇米泉地区 避難行動要支援者個別支援計画作成事業……………125

◇三馬地区 オアシスカフェ泉……………127

【やましな圏域】

◇富樫地区 見守り・友愛訪問……………129

◇伏見台地区 健康・介護予防教室……………131

【まがえ圏域】

◇四十万地区 町会単位の見守りネットワークづくり……………133

◇額地区 身近な地域を自分ごとに考える……………135

◇扇台地区 町内見守りネットワーク構築……………137

※日常生活圏域ごとにまとめています。

森本地区

三谷おでかけサロン

概況

開始時期	令和元年10月	活動場所	三谷校下
------	---------	------	------

ボランティア数	30名	利用料・参加費	無料
---------	-----	---------	----

活動日時	毎月第4日曜日（A・Dルート）・第2土曜日（B・Cルート） 時間は共に9:00~12:00		
------	--	--	--

活動対象	三谷校下の住民で外出に不便を抱える高齢者		
------	----------------------	--	--

活動内容	社会福祉法人の送迎車両を用いて、ボランティアの運転による高齢者の移動支援を行う		
------	---	--	--

定例会の有無	随時実施		
--------	------	--	--

平均利用者数・参加者数	Aルート：約5名	Cルート：約4名
	Bルート：約8名	Dルート：約3名

具体的な取り組み

住民ボランティアが運転する車両で、運転免許返納や車を手放した方など外出に不便を感じている高齢者を乗せて、イオン金沢店まで送迎する取り組みです。

車両は希望が丘（障害者支援施設）と三谷の里ときわ苑（救護施設）より提供を受けています。両施設とも社会福祉法人の地域貢献活動の一環として、送迎車両を使用していない土日にも車両貸し出しという形で協力していただいています。

活動の様子



【車内のおしゃべりも楽しみの一つです】



【地区内の集合場所までお迎え】



【自分で選んで買うことが楽しみです】



【交流の機会になっています】

< ボランティア・利用者の声 >

- ・ 普段なかなか会う機会がない人とおしゃべりできる良い機会になっています。
- ・ 帰りは自宅前まで送ってもらえるから、大きい物も買えるので助かっています。
- ・ いつも子どもに買ってきてもらうのも気兼ねだから、自分で選べて気が楽です。

課題・今後の展望

< アピールポイント >

単なる移動支援だけでなく、地区内の交流の機会として機能しています。
また地域の社会福祉法人の地域貢献活動として協力を得られたことが活動の実現に大きく関わっています。

< 課題 >

運転ボランティアのさらなる確保が課題になっています。

< 今後の展望 >

森本地区内の他の山間部に活動を広げていけるかどうか、
各種団体、法人と協議を進めていきたいと思ひます。



森本地区社協会長
吉岡 信昭 氏

問い合わせ

森本地区社会福祉協議会 TEL 076-258-1130

作成日 令和4年1月

作成者 水本 吏香

小坂地区

非常時を見据えた日頃の見守り関係構築

概況

開始時期	平成30年度	活動場所	各町会単位
ボランティア数	民生委員・町会長・まちぐるみ福祉推進員等	利用料・参加費	—
活動日時	随時		
活動対象	災害発生時に避難誘導や声かけが必要と思われる一人暮らし高齢者等		
活動内容	各町会で一人暮らし高齢者等に対し、非常時に避難誘導や声かけができるよう日頃からの見守り関係構築を目指します。		
定例会の有無	—		
平均利用者数・参加者数	—		

具体的な取り組み

平成30年度に民生委員・防災士・町会長が各町会内の一人暮らし高齢者等、避難誘導が必要な対象者を把握・共有しました。この対象者に対して、町会単位で避難誘導に関わることができる協力住民を探し、非常時だけでなく日頃から対象者と見守り関係づくりができるよう地区社協として支援を行います。

令和元年度は地区の防災訓練等で関係者への事業協力を呼び掛けています。

活動の様子



【民生委員・町会長で地図を囲み情報共有】



【校下防災訓練の様子】

<ボランティア・利用者の声>

- ・避難誘導が必要と思われる方でも、身体状況等は様々なので個々のケースごとに調整する必要があるため、調整できるケースから少しずつ進めたいです（民生委員）
- ・町連・地区社協として声かけ等の協力住民を募るためにも、繰り返し防災の重要性を伝えていきたいです（町会長）

課題・今後の展望

<アピールポイント>

町連・自主防災・地区社協・民児協といった関係組織間で防災に対する取組みの重要性が共有できています。

< 課 題 >

各町会単位で対象者と住民の関係づくりを進めるにあたり、協力住民への呼びかけ等町会の活動支援が必要と思っています。

<今後の展望>

各団体の会合等で取組みを進展させるため、事業の必要性や重要性の周知を引き続き行います。



小坂地区社協会長
高野 善一 氏

問い合わせ

小坂地区社会福祉協議会 TEL 076-252-3031

作成日 令和4年1月

作成者 水本 吏香

千坂地区

千坂地区社会福祉協議会「おたすけ隊」

概況

開始時期	平成29年度 (荒屋団地は平成27年度)	活動場所	地区全域
------	-------------------------	------	------

ボランティア数	58名	利用料・参加費	1時間500円～
---------	-----	---------	----------

活動日時	活動依頼に応じて活動
------	------------

活動対象	地区内の住民どなたでも
------	-------------

活動内容	ちょっとした生活の困りごとを解決する有償型住民福祉サービス。
------	--------------------------------

定例会の有無	年1回
--------	-----

平均利用者数・参加者数	活動依頼 令和2年度 32件
-------------	-------------------

具体的な取り組み

平成27年に荒屋団地町会の有志が集まり、樹木の剪定や重たい家具移動など自分達ができる活動で町内の高齢者等のちょっとした困りごとを解決する仕組みを立ち上げました。

平成29年度から地域安心生活支え合い事業の取り組みとして発展させることとなり、利用者および協力会員を地区全域を対象として取り組みを広げています。

活動の様子



【依頼者と打合せ】



【1時間500円なので気軽に頼めます】



【協力して剪定しています】

<ボランティア・利用者の声>

- ・専門業者に頼むほどじゃないことだけど、高い木の剪定は自分では難しく、作業してもらえてとても助かりました。(利用者)
- ・ちょっとしたことだけど自分のできることが町会の役に立つことは嬉しいね。(隊員)

課題・今後の展望

<アピールポイント>

無償だと依頼者が気を遣ってお茶菓子を用意したり等、かえって頼みにくいということで、気軽に頼めるようワンコインからの有償の取組みにしています。

<課題>

協力会員の増員とさらなる活動の周知です。

<今後の展望>

依頼者が常連となってくれたり、近所の住民に口コミしてもらおうなど、活動が定着するよう周知していきたいです。



おたすけ隊隊長
中山 良一 氏

問い合わせ

千坂地区社会福祉協議会 TEL 076-258-4520

作成日 令和4年1月

作成者 水本 吏香

浅野地区（京町） 京町ミニサロン

概況

開始時期	平成30年5月	活動場所	京町積善会館
------	---------	------	--------

ボランティア数	民生委員・まちぐるみ福祉 活動推進員・支え合い委員 14名	利用料・参加費	100円
---------	-------------------------------------	---------	------

活動日時	毎月第1木曜日 10:00~12:00
------	---------------------

活動対象	京町3町会（京和会・交友会・積善会）在住の高齢者及び浅野本町在住の高齢者へも声掛けしている
------	---

活動内容	歌や体操、手作り教室等参加者全員で相談し企画している
------	----------------------------

定例会の有無	無
--------	---

平均利用者数・参加者数	約12名
-------------	------

具体的な取り組み

児童館で開催されている地域サロンは、京町在住高齢者には距離があるため参加しづらいという声から、町会の集会所で集まる場を開催しました。

凝ったプログラムを企画するよりも、参加者がしてみたいことを尊重し、一緒に散歩する会や要望がある体操や手作り教室等、みんなで作り上げるサロンを意識して、毎月1回開催しています。

活動の様子



【特殊詐欺にあわないために！】



【百歳体操で健康に！】



身近な会館なので
みなさん集まり
やすいそうです

<ボランティア・利用者の声>

- ・児童館に歩いていくことは難しいけど、会館なら歩いていけるので参加しています。
- ・なるべく参加者の自主性を大事にして、みんなでつくるミニサロンにしたい。参加される方も回数を重ねることで徐々にお客さんの感覚から自分たちでやりたいことを意見するようになってきたと思います。(町会長)

課題・今後の展望

<アピールポイント>

身近な会館で参加のしやすさを大切にしています。また、男性参加者が2割程度いることも居場所づくりとしての効果があったと思っています。

<課題>

日頃の見守り関係づくりを目指したいです。また、参加者の増員も図りたいと思います。

<今後の展望>

活動の継続と日頃の見守り関係づくりのための方法等について町会長等と協議します。



浅野地区地域福祉支援
コーディネーター
田崎 宏 氏

問い合わせ

浅野地区社会福祉協議会 TEL 076-253-0294

作成日 令和4年1月

作成者 水本 吏香

浅野地区（錦水会）

錦水シニアクラブ

概況

開始時期	平成26年度	活動場所	錦水会館
------	--------	------	------

ボランティア数	支え合い世話人3名	利用料・参加費	100円
---------	-----------	---------	------

活動日時	毎月第2月曜日
------	---------

活動対象	錦水会在住の65歳以上高齢者
------	----------------

活動内容	体操や各種学習会、茶話会等サロン活動をきっかけにして日頃の支え合い活動を目指す。
------	--

定例会の有無	毎月の集まりを兼ねる
--------	------------

平均利用者数・参加者数	約20名
-------------	------

具体的な取り組み

町内で孤独死が生じたことをきっかけに身近なつながりを持つ機会をつくろうということからサロン活動が始まりました。

町内の語らいの場としてシニアクラブは機能しており、高齢者同士の仲間づくりの成果がでてきています。シニアクラブで仲良くなり、日頃の支え合い・見守り関係に活かせる町内の情報共有も進んできています。若い方にも感謝の言葉をいただき、励みとして活動しています。

活動の様子



【公園付近を清掃中です！】



【ぬり絵体験も人気プログラムです】



【動く鶴を折っています】



【ぬり絵の作品を展示しました】

<ボランティア・利用者の声>

- ・ご近所づきあいのために集まり始めたけど、色々と楽しいプログラムのおかげで、楽しく集まれる素敵な場になっています。
- ・シニアクラブを始めたことで、ちょっとした困り事や悩みも日頃から話せる関係づくりが進んだように感じています。

課題・今後の展望

<アピールポイント>

小さい町会の取組みですが、サロン活動から日頃の見守り・支え合いの関係づくりが生まれてきています。

< 課 題 >

一人暮らしの方の高齢化が進み、多くの方が身内の家へ行かれ
たり、施設に入所されたりで参加者が減っています。

<今後の展望>

浅野地区全体で生活上の困り事解決の仕組みが作れるよう、
困り事の把握などに協力していきたいです。



元民生委員
上野 健三 氏

問い合わせ

浅野地区社会福祉協議会 TEL 076-253-0294

作成日 令和4年1月

作成者 水本 吏香

浅野地区（昌永町） ダイナスティサロン

概況

開始時期	平成 29 年 1 月	活動場所	信開ダイナスティ浅野本町 トレーニングルーム
------	-------------	------	---------------------------

ボランティア数	世話人・民生委員 各一名	利用料・参加費	無料
---------	-----------------	---------	----

活動日時	月 1 回（不定期）
------	------------

活動対象	マンション住民
------	---------

活動内容	体操を中心とした運動のつどい
------	----------------

定例会の有無	無
--------	---

平均利用者数・参加者数	約 10 名
-------------	--------

具体的な取り組み

マンション住民の間で高齢化が意識されるようになったことに伴い、住民同士の交流・運動の機会を設けようという声から、月 1 回の頻度でマンション内のトレーニングルームで体操を中心とした集まりを開催しています。

地域包括支援センターかすがも体操講師の人選等に協力しています。昌永町担当民生委員も協力し、マンション内の交流の場として定着しています。

活動の様子



【手軽にできる体操にチャレンジ】



【みんなで仲良く運動しています】



住民同士の交流の機会
として役立っています

<ボランティア・利用者の声>

- ・みんなで運動すると楽しいし、また次回も参加しようかなという気持ちになるわ。
- ・普段顔を合わせない方ともお話できる良い機会になってます。
- ・マンション在住でもやっぱり人と関わりたい気持ちはあるからこういう場は大切ね。

課題・今後の展望

<アピールポイント>

難しい決まり事や取り決めは特にせず、気軽につながっていける場として運営しています。

< 課 題 >

参加者をもう少し増やせるといいなと思っています。

<今後の展望>

現状は、コロナ禍であるため開催されていませんが、出来るだけ早く開催できればよいと思っています。



浅野地区民生委員
福光 省三 氏

問い合わせ

浅野地区社会福祉協議会 TEL 076-253-0294

作成日 令和4年1月

作成者 水本 吏香

浅野地区

浅野地区支え合い委員の設置

概況

開始時期	平成29年度	活動場所	各町会
ボランティア数	支え合い委員19名	利用料・参加費	—
活動日時	町会毎に随時		
活動対象	町内の一人暮らし高齢者や高齢者のみ世帯等		
活動内容	町会単位で支え合いの仕組みづくりについて検討し実施		
定例会の有無	年1～2回程度		
平均利用者数・参加者数	—		

具体的な取り組み

町会毎に世帯構成や実情が異なることから、「支え合い支援員」（町会長や班長等）を配置し、各町会で必要とされる取組みを検討の上、展開しています。

コミュニティカフェの立上げや、見守り関係の再検討、既存の町会の取組みへの参加者の呼びかけの見直し、町会組織の改編による高齢者への役割の付与等、町会毎に様々な活動を企画・実施しています。

活動の様子



【支え合い委員・町会長の会議】



【各町会の取組みを実践発表し共有】



【地域福祉支援コーディネーターが配置されました】



＜ボランティア・利用者の声＞

- ・町会主体でラジオ体操を毎日続けることで高齢者の居場所づくりになっています。
- ・災害時を見据えた見守り関係を町会で見直した。実際に避難訓練時に避難の声かけ練習も実行できたのでネットワークが少しずつ定着しつつあります。
- ・コミュニティカフェで地域サロンに参加していない方の居場所づくりができました。

課題・今後の展望

＜アピールポイント＞

支え合い事業を通じて各町会内で何が必要とされるのか、担い手としてどなたが活動できるのか等話し合いが進む良い機会となっています。

＜課題＞

各町会のペースで順次進めているので、取り組みのスピードに差が生じている。適宜各町会を支援する必要があります。

＜今後の展望＞

令和元年度より地域福祉支援コーディネーターが配置され、各町会へのより細かな支援を実施していきたいです。



浅野地区地域福祉支援
コーディネーター
田崎 宏 氏

問い合わせ

浅野地区社会福祉協議会 TEL 076-253-0294

作成日 令和4年1月

作成者 水本 吏香

森山地区

森山ラジオ体操の会

概況

開始時期	令和2年10月	活動場所	元町第1児童公園
ボランティア数	8名	利用料・参加費	無料
活動日時	毎週月・水曜日 午前6時30分～6時40分		
活動対象	森山地区住民		
活動内容	ラジオ体操第1第2		
定例会の有無	—		
平均利用者数・参加者数	30名～40名		

具体的な取り組み

新型コロナウイルス感染症の蔓延によって、日々の生活で様々な規制が始まり、特に高齢者の外出機会が減少した。そのため、健康の維持に悪影響が出たり、閉じこもりによって孤立化する傾向が見られるようになった。

そこで、毎週2回ラジオ体操を行うことで、健康づくりと挨拶、近況について話し合えるきっかけを作っている。

活動の様子



【規則正しい生活習慣が身につく】



【体を動かしてリフレッシュ】



近所の公園で開催しているため、参加しやすい

<ボランティア・利用者の声>

- ・早寝早起きの習慣が身に付き、進んで会場へ行けるようになった。
- ・感染対策をしているので、安心して挨拶や情報交換が出来て楽しい。

課題・今後の展望

<アピールポイント>

ラジオ体操を続ける事が健康づくりに役立つと分かり、参加人数がコンスタントな状態が続いた。

住民同士の交流の場になり、民生委員も進んで参加しているので、地域住民の情報が入り、見守りに繋がっている。



< 課 題 >

晩秋から冬場は夜明けが遅く、家を出る時は真っ暗な状態で危険。雨天や降雪時に開催できない。

森山地区社協会長
小阪 栄進 氏

<今後の展望>

森山地区だけではなく、近隣地区の住民も次第に参加するようになり、広がりを見せている。他の地区でも開催できるようになれば、地域住民の健康づくりに役立つだけでなく、交流の場となっていく。

問い合わせ

森山地区社会福祉協議会 TEL 076-252-0817

作成日 令和4年1月

作成者 水本 吏香

森山地区

移動販売車「とくし丸」による買い物支援

概況

開始時期	令和3年1月	活動場所	鳴和町町会内2か所
ボランティア数	—	利用料・参加費	—
活動日時	毎週月・木曜日 午後12時30分～午後1時		
活動対象	森山地区住民		
活動内容	買い物支援		
定例会の有無	—		
平均利用者数・参加者数	10名		

具体的な取り組み

近隣の大型スーパーマーケット閉店時、買い物に関する相談を受けた事をきっかけに、当該スーパー利用者が多い鳴和地区を対象に買い物支援について検討。

地域住民への聞き取り調査から「自分の目で見て買い物を楽しみたい」との要望が多かった為、移動販売車とくし丸を誘致。町会が広域の為、現在鳴和町町会2か所で毎週各1回実施している。

活動の様子



【地区内の集合場所まで訪問】



【品数も豊富で目移りします】



住民同士の交流の機会
としても役立っています

<ボランティア・利用者の声>

- ・短い時間だけど、近所の人とおしゃべり出来て楽しい。
- ・腰痛で動けない時や、重い物が欲しい時に注文品を戸口まで配達してくれるのでありがたい。

課題・今後の展望

<アピールポイント>

移動手段が無く、また長時間歩くことが辛い住民が自ら買い物を楽しむ事が出来る。また、住民同士の交流の場にもなり、民生委員が参加する事で地域の情報を得られる。

<課題>

場所を変えて2か所で実施しているが、来訪する住民が固定化している。広報手段や時間、場所を検討したい。

<今後の展望>

現在、大型スーパーマーケットが前施設跡地に建設中。開店後、移動販売車とくし丸の運営方法について再検討が必要。



森山地区社協会長
小阪 栄進 氏

問い合わせ

森山地区社会福祉協議会 TEL 076-252-0817

作成日 令和4年1月

作成者 水本 吏香

夕日寺地区

夕日寺地区各町会ボランティアチーム

概況

開始時期	平成29年度	活動場所	各町会
------	--------	------	-----

ボランティア数	40名（町会長・民生委員・まちぐるみ福祉活動推進員）	利用料・参加費	無料
---------	----------------------------	---------	----

活動日時	各チーム単位で活動
------	-----------

活動対象	町会内で気になる高齢者
------	-------------

活動内容	チーム単位で気になる方の個別見守りやサロン活動と連携して見守りを展開している
------	--

定例会の有無	年2回程度
--------	-------

平均利用者数・参加者数	—
-------------	---

具体的な取り組み

町会毎に民生委員を班長、町会長・まちぐるみ福祉活動推進員をメンバーにしたボランティアチームを組織しました。

チームごとに町会内の気になる方について情報を共有し、見守り活動の進め方を協議のうえ、実践している。地域サロンを安否確認の機会としたり、畑仕事をしている場に顔を出すなど町会毎の特徴に合わせた見守りを行っています。

活動の様子



【地域サロンの場が見守りの機会】



【自宅訪問で見守りを実施】

<ボランティア・利用者の声>

- ・以前からある町会内の交流を活かして見守りしているので、見守り活動と言っても特別なことをしている感覚はありません。自然と取組めていることが良いと思います。
- ・畑作業をしているところに声をかけあうことは昔からのお付き合いとしてやってきました。この声かけは見守り活動の一環ですが、それ以前にご近所付き合いなので、特別に構えることなくお付き合いを続けて見守っていきます。

課題・今後の展望

<アピールポイント>

各町会単位で関係者がまとまって見守り活動について話し合ったり、実践をしています。

< 課 題 >

見守り活動の協力者を増やすことです。各町会で色々な方が関わるよう働きかけを考えたいと思います。

<今後の展望>

定期的に情報共有する機会を設けて、取組みの発展を考えていきたいと思います。



夕日寺地区社協会長
山根 久美子 氏

問い合わせ

夕日寺地区社会福祉協議会 TEL 076-252-3642

作成日 令和4年1月

作成者 水本 吏香

松ヶ枝地区 コミュニティカフェ

概況

開始時期	令和3年4月	活動場所	文教会館1階 喫茶コーナー
------	--------	------	------------------

ボランティア数	3名程	利用料・参加費	100円
---------	-----	---------	------

活動日時	毎月1回 月曜日 13:30~14:30
------	----------------------

活動対象	松ヶ枝地区にお住いの65歳以上の方
------	-------------------

活動内容	茶話会
------	-----

定例会の有無	無
--------	---

平均利用者数・参加者数	10名程度
-------------	-------

具体的な取り組み

香林坊方面に住んでいる方の地域サロンへの参加が少ないため、文教会館の1階にある喫茶コーナーでコミュニティカフェを開催することにしました。百万石通を渡る必要がないので、近江町方面の方も来やすいのではないかと期待しています。民生委員とまちぐるみ福祉活動推進員の方が、それぞれ声を掛けて参加者を募っており、少しずつ参加者が増えています。

活動の様子



<ボランティア・利用者の声>

- ・民生委員の方から声をかけてもらって来るようになりました。以前は地域サロンにも行ってたけど、人数が多くて、色んな人が来ていて行かなくなったけど、ここは人数も少なくて参加しやすい。(参加者)
- ・コーヒーや紅茶を飲んで、お菓子を口にしながらゆっくり過ごせる集いの場です。

課題・今後の展望

<アピールポイント>

文教会館の喫茶コーナーはオープンスペースになっているので、気軽に入ることができます。おしゃべりが中心で、ゆっくりした時間を過ごすことができます。

<課題>

地域サロンは行事などの活動が中心になっているため、高岡町方面でも会話を楽しむことができる集いの場を開設したいです。

<今後の展望>

少しずつ新しい参加者が増えています。良い会場があれば、別の場所でも新たに開設したいと考えています。



松ヶ枝地区社協
ボランティアのみなさん

問い合わせ

松ヶ枝地区社会福祉協議会 TEL 080-7249-0212

作成日 令和4年2月

作成者 小鍛治 康生

此花地区 このはなサロン市

概況

開始時期	令和元年10月	活動場所	此花会館 集会室
------	---------	------	----------

ボランティア数	5名	利用料・参加費	商品実費
---------	----	---------	------

活動日時	毎月2回 金曜日サロン終了後
------	----------------

活動対象	このはなサロン参加者
------	------------

活動内容	買い物支援（野菜・果物・惣菜の販売）
------	--------------------

定例会の有無	有（販売商品の打合せ）
--------	-------------

平均利用者数・参加者数	25名程
-------------	------

具体的な取り組み

此花地区では、商店の減少等によって買い物をするところが減ってしまいました。そこで、事業の中で買い物支援ができればと思ったのですが、それだけではもったいない…。なにか秘策はないかということで、地域サロン参加者が固定化しているという課題に目をつけ、このはなサロン×買い物支援＝このはなサロン市を行うことにしました。地域サロンに足を運ぶことで外出のきっかけとなり、来たついでにお買い物。地域サロン参加者の増加も見込んでいます。

活動の様子



<ボランティア・利用者の声>

- ・サロンに来たついでにお買い物できるなんて嬉しいです。ひとりではなく、お友だちと買い物をすることで交換したり分け合ったりして会話もはずむし、これからの楽しみが増えました。楽しくてつい買いすぎてしまいます。(参加者)
- ・ひとり暮らしの方には、お惣菜が人気で品数も増えています。(ボランティア)

課題・今後の展望

<アピールポイント>

このはなサロン・このはなサロン市に参加すれば…おかすが一品増えます！

< 課題 >

自主財源確保について対策を考えています。とりあえず現段階では、品数を増やさず身の丈に合った運営を心掛けていきます。

<今後の展望>

～継続は力なり～

福島前会長から活動を引き継ぎました。まずは5年間の継続を目指します。明るい此花、住みよい此花に少しでも役立つように頑張ります！



此花地区社協
ボランティアのみなさん

問い合わせ

此花地区社会福祉協議会 TEL 076-221-0938

作成日 令和3年12月

作成者 小鍛治 康生

瓢箪地区 つなごう瓢箪

概況

開始時期	平成31年4月	活動場所	瓢箪地区全域
------	---------	------	--------

ボランティア数	ボランティア 30名 まちぐるみ 41名	利用料・参加費	無料
---------	-------------------------	---------	----

活動日時	随時、依頼があったとき
------	-------------

活動対象	瓢箪地区にお住まいのおおむね75歳以上の方
------	-----------------------

活動内容	話し相手、声かけ・見守り、困りごとのお手伝い等
------	-------------------------

定例会の有無	不定期開催
--------	-------

平均利用者数・参加者数	—
-------------	---

具体的な取り組み

従来から民生委員を中心にまちぐるみ福祉活動推進員、ボランティアのつながりが深く、助け合いの精神が根づいた地域です。近所の「気になる人」を何気なく見守っていた人が、民生委員や地区社協に相談をし、支援につながってきたケースがいくつもあります。そこで「気になる人」の見守り・サポートをしている人へボランティアの参加を呼びかけ、ご近所づきあいの中で行われていた見守り支援活動をもとに体制づくり・仕組みづくりをすすめてきました。

活動の様子



ひとり暮らし高齢者健康記録表		年	月	分
① 健康	(歳)			
② 通院	病名			通院先
③ 入院	病名			入院先
備考	(担当民生委員)			



<ボランティア・利用者の声>

- ・他人なのにいつも気にかけてくれて嬉しい。ひとり暮らしだけど、そばにこんな方がいてくれると心強い。これからも頼むね！（Iさん）
- ・定期的な声かけが困りごとの発見につながっています。こちらから行くばかりでなく、家に来てもらうことも楽しみのひとつになっています。（ボランティアKさん）

課題・今後の展望

<アピールポイント>

小さな支え合いの積み重ねがちょっとした変化の気づきとなり、迅速な対応につながっています。また、複合的な課題については専門職を交えてチームで検討することで、必要な支援や専門的なケアに結び付けています。

< 課 題 >

小さな支え合い関係を次世代にどう引き継いでいくか、若い世代を中心とした新たな担い手の育成をどうすすめていくかが今後の課題です。

<今後の展望>

地元の子どもたちと高齢者が交流する機会を増やして、さらにつながりの輪を広げていきたいです。



瓢箪地区民児協 松島会長

問い合わせ

瓢箪地区社会福祉協議会 TEL 076-221-1476

作成日 令和4年2月

作成者 小鍛治 康生

馬場地区

町会単位の支え合い活動の企画促進

概況

開始時期	令和元年度	活動場所	各町会
------	-------	------	-----

ボランティア数	町会長・民生委員・まちぐるみ福祉活動推進員	利用料・参加費	—
---------	-----------------------	---------	---

活動日時	町会毎に検討
------	--------

活動対象	主に一人暮らし高齢者や高齢者のみ世帯（町会内で検討する）
------	------------------------------

活動内容	町会単位で支え合いの仕組みづくりを企画・実施できるよう、町会長やまちぐるみ福祉活動推進員による協議を促進
------	--

定例会の有無	年1回
--------	-----

平均利用者数・参加者数	—
-------------	---

具体的な取り組み

馬場地区として事業の進め方を検討するため、各種団体から実務者を委員として推薦いただき、作業部会を設けアンケート調査やその結果の分析について協議をしました。

各町会の高齢者の生活実態の傾向をつかむため、各町会長にアンケート調査を依頼しました。アンケート結果を踏まえ、町会長・まちぐるみ福祉活動推進員に町会単位で支え合いの仕組みづくりに取り組んでもらいたい旨を説明しました。

活動の様子



【事業についての説明会の様子】

町会長・まちぐるみ福祉活動推進員が自分達でできそうな支え合い活動について話し合いました。



【説明会の発表の様子】

できる可能性がある取り組みの方向性や現在すでに活動している取り組みを発表しました。

<ボランティア・利用者の声>

- ・校下全体よりもそれぞれの顔が見える町会単位で取り組みを考えたほうが活動を起こしやすいと思った。
- ・町会単位で考えると民泊施設や空き家など、人が集まる場として活用できる場所が町会内に点在している。人が集まる機会を作り出すためにも場所の活用を考えたい。

課題・今後の展望

<アピールポイント>

作業部会に町会長・公民館委員・老人会・民生委員・まちぐるみ福祉活動推進員から委員を選出したことで具体的な取り組み例を提案できました。

<課題>

町会によって人口構成や会場等の資源に差があるので、取り組みできるところから話し合いを進めていきたいです。

<今後の展望>

町会単位で支え合い活動の具体化を進め、各種助成金を活用し、資金的なサポートも検討します。



馬場校下社協会長
河合 康子 氏

問い合わせ

馬場校下社会福祉協議会 TEL 076-252-3959

作成日 令和4年1月

作成者 水本 吏香

材木地区

空き家や屋外を活用した集いの場の創出

概況

開始時期	令和2年度	活動場所	町会単位
ボランティア数	—	利用料・参加費	—
活動日時	—		
活動対象	各町会在住の高齢者		
活動内容	町会単位で空き家や公園を活用した集いの場を検討		
定例会の有無	—		
平均利用者数・参加者数	—		

具体的な取り組み

町会長・民生委員・まちぐるみ福祉活動推進員で情報を共有したところ、①町会単位、②空き家、③集いの場と3つのキーワードが見えてきた。

キーワードを踏まえた支え合い活動を推進する形として、各町会で空き家や公園等集まりやすい集いの場の創出に向けて町会の選定や取り組みの推進を図っていく。

活動の様子



【関係者が集い協議】

民生委員・町会長等各種関係者が集い、地域の情報を共有し、今後の支え合いの取り組みに向けて意見を交換した。

＜ボランティア・利用者の声＞

- ・町会単位で集まる場を考えていきたい。(町会長)
- ・空き家が増えているため、集いの場として活用できないか考えたい。(民生委員)
- ・公園などの屋外なら感染予防に配慮して集まることができる。コロナ禍でも工夫して集える場を検討していきたい。(まちぐるみ福祉活動推進員)

課題・今後の展望

＜アピールポイント＞

町会単位の支え合い活動を検討するにあたり、町会長や民生委員等各関係者と協議し、モデル町会を選定し、集まる場所や対象者を検討しています。

＜今後の展望＞

空き家を活用したミニサロンのような取り組み等ができないか各関係者と協議を重ね取り組みの推進を図っていきます。



材木地区社協会長
大島 玉子 氏

問い合わせ

材木地区社会福祉協議会 TEL 076-222-1380

作成日 令和4年2月

作成者 宮田 亮平

味噌蔵地区

町会単位の見守り・支え合い体制の充実

概況

開始時期	平成29年度	活動場所	各町会
ボランティア数	民生委員・まちぐるみ 福祉活動推進員・町会長等	利用料・参加費	—
活動日時	町会毎に随時		
活動対象	町内の一人暮らし高齢者や高齢者のみ世帯等		
活動内容	町会単位で見守り・支え合い体制の充実のため見直しを図る		
定例会の有無	—		
平均利用者数・参加者数	—		

具体的な取り組み

支え合い事業を進めるにあたり、民生委員が把握している高齢者に生活実態や支え合い活動に望むことを伺うアンケート調査を実施しました。

調査結果を踏まえ、地区全体にかかる活動を企画するのではなく、町会単位での見守り・支え合い体制の充実を目標とし、現在の町内の各種支え合い活動の把握から取組みます。既にある町会活動や善隣館活動等を活用しつつ、町会単位で不足している取組みの開発を目指します。

活動の様子



【町会単位活動：常福寺朝市】



【町会単位活動：買い物支援】



【町会単位活動：サロン喫茶】



【町会単位活動：天親カフェ】

<ボランティア・利用者の声>

- ・朝市の取組みは買い物ついでに町内の人とおしゃべりできる場にもなって楽しい。
- ・サロン喫茶はホテルの喫茶店で開かれているから開放的で参加しやすいです。
- ・身近な町会で集まることで、普段から気かけあう良いきっかけになっています。

課題・今後の展望

<アピールポイント>

現時点で地区内の各所で様々な活動が既に取り組みられています。各取組みによって周辺住民を中心に、住民同士の交流が生まれています。

< 課 題 >

地区内には定期的なつどいの場が立ち上がっていない町会・エリアもあり、実現に向けた場の確保が課題です。

<今後の展望>

つどいの場の立上げを基本としつつ、必要とされる支え合いの仕組みづくりをさらに検討していきます。



味噌蔵地区社協会長
中山 稔氏

問い合わせ

味噌蔵地区社会福祉協議会 TEL 076-221-0962

作成日 令和3年12月

作成者 宮田 亮平

犀川地区

山間地での居場所づくり

概況

開始時期	令和3年度	活動場所	検討中
------	-------	------	-----

ボランティア数	—	利用料・参加費	—
---------	---	---------	---

活動日時	今後検討する
------	--------

活動対象	公民館の地域サロンに行くことができない町会で居場所づくりのためのニーズ調査を実施予定
------	--

活動内容	茶話会、手作り教室等
------	------------

定例会の有無	—
--------	---

平均利用者数・参加者数	—
-------------	---

具体的な取り組み

公民館で実施している地域サロンに遠方のため参加することが難しい町会に対し、町会の集会所等を活用した居場所づくりを検討しています。

居場所が必要な町会をモデル地区として選定し、居場所に関するニーズ調査を実施する予定です。

活動の様子



<ボランティア・利用者の声>

- ・公民館までは遠いので近所で集まる場があると嬉しいです。
- ・情報交換できていろんなことを知ることができる。こうした場所でおしゃべりできるから嬉しいです。

課題・今後の展望

<アピールポイント>

山間地の集落では一人暮らし高齢者が増加しています。集落内の歩いて行ける身近な場所を活用し、気軽に寄れる「集いの場」の開設を目指します。

< 課 題 >

プログラムを用意せず茶話会だけで参加してくれるかが心配です。また、運営の管理者の確保等についても課題があります。

<今後の展望>

モデル地区を選定し、町会長に事業の趣旨を説明し住民アンケートを実施していく予定です。



犀川地区社協会長
多田 外志令 氏

問い合わせ

犀川地区社会福祉協議会 TEL 076-229-0949

作成日 令和4年1月

作成者 宮田 亮平

湯涌地区

買い物支援と生活支援の仕組みづくりの検討

概況

開始時期	令和元年度	活動場所	検討中
------	-------	------	-----

ボランティア数	—	利用料・参加費	—
---------	---	---------	---

活動日時	今後検討する
------	--------

活動対象	町会・集落単位で一人暮らし高齢者や高齢者のみ世帯に聞き取り調査
------	---------------------------------

活動内容	①移動スーパー誘致による買い物・交流の場づくり ②ちょっとした困り事に対応する生活支援の仕組みづくり
------	---

定例会の有無	—
--------	---

平均利用者数・参加者数	—
-------------	---

具体的な取り組み

まちぐるみ福祉活動推進員が町会・集落単位の高齢者意向調査を行います。
意向調査のうえで、各種団体と活動の方向性について協議する予定です。

- ①移動スーパー誘致についてはそういった場を求める声について感触を掴み、具体化にあたっては連合町会等と協議する見込みです。
- ②生活支援の仕組みづくりは、元気高齢者の活躍の場づくりを企画したいです。

活動の様子



【まちぐるみ福祉活動推進員への説明会】

高齢者への意向調査はまちぐるみ福祉活動推進員に依頼し、調査を実施する。サロン等高齢者が集まる機会聞き取りを進めます。



【聞き取り調査の様子】

サロンで移動スーパーの必要性やちょっとしたお手伝いとしてこういった内容があると助かるか等について聞き取りを行います。

<ボランティア・利用者の声>

- ・町会や集落単位で生活しているので、その単位で人が集まる場があると嬉しいです。
- ・生活支援の仕組みづくりについては、単に困り事解決だけでなく、元気高齢者が活躍できる機会も兼ねた仕組みを考えたいと思います。

課題・今後の展望

<アピールポイント>

聞き取り調査を個別訪問で行うのではなく、サロンや井戸端会議の場等を行うことで、高齢者のみなさんに自分たちの生活を考えてもらう良い機会にしたいと思います。

<課題>

コロナの影響で、協議の機会が減少したため、コロナ禍でも協議できる環境を整える必要があります。

<今後の展望>

移動支援という方向性で検討しています。モデル町会の選定等、協議を進めていく予定です。



湯涌地区社協会長
中田 久志 氏

問い合わせ

湯涌地区社会福祉協議会 TEL 076-235-1852

作成日 令和4年1月

作成者 宮田 亮平

浅川地区

高齢者アンケートによる支え合い活動の提案

概況

開始時期	平成29年度	活動場所	町会単位
------	--------	------	------

ボランティア数	—	利用料・参加費	—
---------	---	---------	---

活動日時	—
------	---

活動対象	各町会在住の高齢者（アンケート対象者）
------	---------------------

活動内容	町会単位でアンケート調査を企画し、生活実態や困り事の傾向を調査実施。調査結果を踏まえ町会に仕組みづくりを提案。
------	---

定例会の有無	—
--------	---

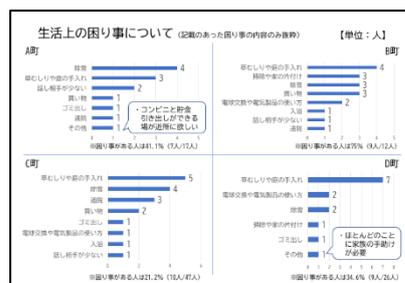
平均利用者数・参加者数	—
-------------	---

具体的な取り組み

アンケート調査によって町会単位の支え合いの仕組みづくりを地区社協から町会に提案する形で事業を展開しています。

浅川地区は複数の小学校下を含んでいるため、校下全体でひとつの事業を実施するより、各町会単位で取り組みを広げる方向性としています。アンケートの企画・調査・結果の振り返りまでをワンセットとして、調査によって支え合いの仕組みを検討したい町会に対し、地区社協として関わっています。

活動の様子



【アンケート結果振り返りの会議】

町会長や民生委員、まちぐるみ福祉活動推進員とアンケート結果を共有。町会ごとに「人と人のつながりが強い地域」だからできる、小さなボランティアや居場所（ミニサロン）などを提案・検討している。

<ボランティア・利用者の声>

- ・アンケートを通じて町会の高齢者の声を拾うことができました。(町会長)
- ・高齢者の集まりや交流は何となく把握しているつもりだったがあらためてそうした仕掛けが必要なんだと再確認できました。(民生委員)
- ・町会で話し合うきっかけづくりにアンケートを活用いただきたいです。(地区社協)

課題・今後の展望

<アピールポイント>

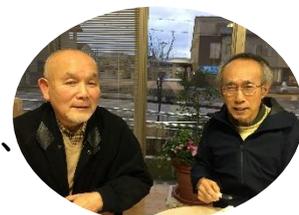
町会単位の支え合い活動を検討するにあたり、アンケート調査を通じ実態や傾向を把握する活動支援をしています。

< 課 題 >

各町会単位で実際の支え合い活動を企画・展開するにあたり、中心となる人やボランティアの集め方が課題です。

<今後の展望>

残り2町会で浅川地区全域の調査が終わります。調査結果を踏まえて、仕組みづくりに向けて支援していきます。



支え合い事業実行委員
中島隆一氏・澤野等氏

問い合わせ

浅川地区社会福祉協議会 TEL 076-222-4422

作成日 令和3年12月

作成者 宮田 亮平

諸江地区

ほっとネットもろえ

概況

開始時期	平成28年4月	活動場所	諸江地区
ボランティア数	35名	利用料・参加費	無料
活動日時	随時		
活動対象	諸江地区にお住まいの方		
活動内容	地域のネットワーク作りと見守り活動		
定例会の有無	無 ※ボランティアの打合せは随時開催		
平均利用者数・参加者数	—		

具体的な取り組み

東日本大震災をきっかけに、平成22年7月、隣同士が仲良く挨拶を行う「向こう三軒両隣運動」をスタートさせました。

平成28年4月より、この「向こう三軒両隣運動」と「地域の見守り活動」を一体的に行う形で「ほっとネットもろえ」として取り組んでいます。

活動の様子



↑【ふれあい便】

75歳以上の一人暮らしの方・高齢者のみの方に、見守りを兼ねて、暑中見舞と寒中見舞の品をお届け

↓ 移動スーパーと連携して安否確認を実施



←【長寿お祝い品】

88歳と99歳の方にお祝いの品をお届け

<ボランティア・利用者の声>

・コロナ禍でも玄関先での訪問活動を継続したところ、大変喜ばれました。

課題・今後の展望

<アピールポイント>

定期的にボランティア講座を開催し、楽しく学びながら活動しています。

<今後の展望>

福祉活動の拠点となる「もろえ福祉館みらい」が現在建設中です。完成したら「地区ボランティアセンター」と「住民サポートセンター」を設置し、地区内の老人会や女性会、子ども会などとも連携して活動を進めていきたいと考えています。



諸江地区社協会長
森田 郁代 氏

問い合わせ

諸江地区社会福祉協議会 TEL 076-263-1687

作成日 令和3年12月

作成者 寺西 加奈子

浅野川地区 ゆみとり支え合いネットワーク

概況

開始時期	平成29年10月	活動場所	弓取町
ボランティア数	12名	利用料・参加費	無料
活動日時	随時		
活動対象	弓取町にお住まいの高齢者等		
活動内容	見守り、買物・通院支援、ゴミ出し、除雪、各種申請支援など		
定例会の有無	有（偶数月第2火曜日）		
平均利用者数・参加者数	20名		

具体的な取り組み

ボランティアが2人1組になり、見守りや支援が必要な高齢者等とマッチングを行い、定期訪問などの見守り活動や簡易な生活支援を行います。

活動を通じて、利用者の状況の変化や新たなニーズを把握した場合は、定例会で情報共有し、対応を全員で協議します。

活動の様子



<ボランティア・利用者の声>

- ・「また来てくれたんか、ありがとう」と言われると、こちらも嬉しくなります。
- ・向こう三軒両隣の感覚で、無理なく活動しています。

課題・今後の展望

<アピールポイント>

ボランティアが、活動上の課題や悩みを一人で抱え込まないよう、随時定例会で協議し、組織として対応するようにしています。

< 課 題 >

利用者のプライバシーに対する配慮を、常に意識する必要があると感じています。

<今後の展望>

町会ぐるみでの見守りネットワークを構築し、災害時、特に水害時を想定した利用者の避難支援に生かしたいと思っています。



弓取町 前民生委員
前田 義春 氏

問い合わせ

浅野川地区社会福祉協議会 TEL 076-238-3680

作成日 令和4年1月

作成者 寺西 加奈子

浅野川地区 蚊爪お助け隊

概況

開始時期	令和元年5月	活動場所	蚊爪町会
------	--------	------	------

ボランティア数	22名	利用料・参加費	一部有料
---------	-----	---------	------

活動日時	平日 18:00 以降および休祝日
------	-------------------

活動対象	蚊爪町会に居住する70歳以上の高齢者世帯
------	----------------------

活動内容	不燃物や資源回収等のゴミ出し、電球等の交換、敷地内の除雪 ※有料回収ゴミの搬出、家具移動、道路の除雪、機械による草刈り、除草剤の散布等は有料
------	---

定例会の有無	無
--------	---

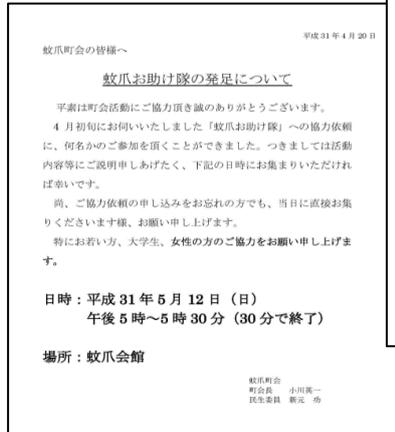
平均利用者数・参加者数	5名
-------------	----

具体的な取り組み

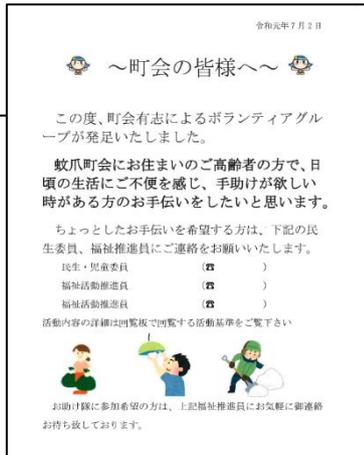
担当民生委員またはまちぐるみ福祉活動推進員にお申し込みいただきます。事務局が訪問して見積もりを行い、利用料について確認のうえ、日程調整して活動を開始しています。

活動の様子

↓ 隊員募集のチラシ



← 依頼者向けのチラシ



↓ 草刈りでスッキリしたお庭



< ボランティア・利用者の声 >

- ・「ありがとう！また次も頼むね！」という声を聞くと、やってよかったと思います。
- ・活動をきっかけに、住民のみなさんとのつながりが深まりました。

課題・今後の展望

< アピールポイント >

有償とすることで、住民のみなさんが遠慮をせず、気軽に頼めるようになったのではと感じています。

いただいた利用料は、ボランティア活動保険の掛金や地域サロンの費用などに充てています。

< 課題・今後の展望 >

子どもたちに参加してもらうなど、新しい担い手を確保していきたいと思っています。



浅野川地区民児協会長
(蚊爪町会民生委員)
新元 功 氏

問い合わせ

浅野川地区社会福祉協議会 TEL 076-238-3680

作成日 令和4年1月

作成者 寺西 加奈子

川北地区 住民ボランティアグループ

概況

開始時期	令和3年1月	活動場所	川北地区
------	--------	------	------

ボランティア数	14名	利用料・参加費	無料
---------	-----	---------	----

活動日時	随時
------	----

活動対象	①70歳以上で、一人暮らしまたは高齢者のみの世帯の方 ②心身に障害がある方
------	--

活動内容	宅地内の除雪および除草、照明器具の取り換え
------	-----------------------

定例会の有無	無
--------	---

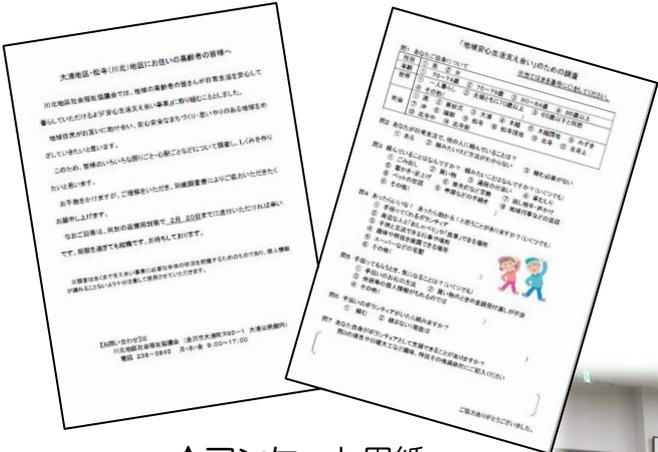
平均利用者数・参加者数	今後募集予定
-------------	--------

具体的な取り組み

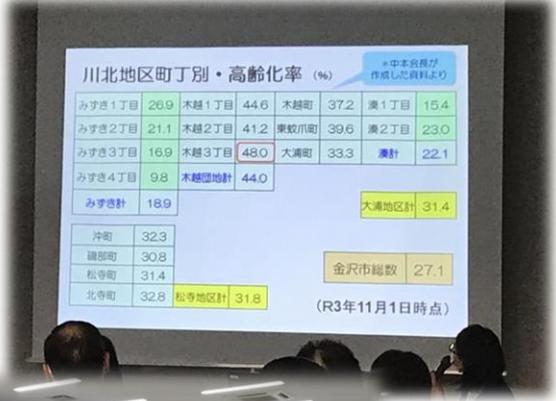
令和3年1月、70歳以上の方を対象に、生活上の困りごとや心配ごとに関するアンケートを実施しました。その結果をもとに、活動内容を「除雪・除草・照明器具の取り換え」の3つに絞り、民生委員とまちぐるみ福祉活動推進員を中心にボランティアを募集しました。

コロナ禍が落ち着いたら、ボランティアグループの発足式を開催予定です。

活動の様子



↑ アンケート用紙



まちぐるみ福祉活動推進員研修会で、一人暮らし高齢者の支援について学びました →

＜ボランティア・利用者の声＞
 ・自分ができる範囲で、お役に立てればと思っています。

課題・今後の展望

＜アピールポイント＞
 地区が広いので、大浦地区と松寺地区に分け、それぞれにチームリーダーを配置する予定です。

＜課題＞
 利用者がどれだけ集まるか、マッチングがうまくいくか等、実際に活動を開始するまでに多くの課題があります。

＜今後の展望＞
 町会や各種団体と連携し活動を定着させ、共助・近助を構築していきたいです。



川北地区社協会長
 中本 裕 氏

問い合わせ
 川北地区社会福祉協議会 TEL 076-238-5845

作成日 令和4年1月
 作成者 寺西 加奈子

鞍月地区

鞍月新町福祉サポート隊

概況

開始時期	平成30年7月	活動場所	鞍月新町町会
------	---------	------	--------

ボランティア数	13名	利用料・参加費	無料
---------	-----	---------	----

活動日時	随時
------	----

活動対象	鞍月新町町会にお住まいの高齢者等
------	------------------

活動内容	話し相手、ゴミ出し、電球交換など
------	------------------

定例会の有無	有（偶数月第1土曜日）
--------	-------------

平均利用者数・参加者数	17名
-------------	-----

具体的な取り組み

民生委員が、見守り・支援が必要な高齢者等を把握し、なるべく近隣に住む隊員をマッチングしています。

ご近所付き合いの中でさりげない見守りを行い、簡易な生活支援に対応するようになっています。

活動の様子



←【定例会の様子】

2ヶ月に一度開催し、民生委員を中心にこまめな情報共有を心がけています。



【隊員のみなさん】→

<ボランティアの声>

- ・特別なボランティアをしているという意識はありません。ご近所付き合いの延長として、無理のない範囲で、自然体で活動しています。

課題・今後の展望

<アピールポイント>

「向こう三軒両隣」の感覚で行っています。
町会とも連携し、活動が根付いてきたと感じています。

<課題>

女性のボランティアが多いので、除雪など力が必要な支援に対応するのが難しい現状です。

<今後の展望>

男性や若い方にも協力していただき、持続的な活動にしていきたいと思っています。



(左) 鞍月新町 谷沢民生委員

(右) 鞍月地区社協 岡田会長

問い合わせ

鞍月地区社会福祉協議会 TEL 090-4328-1200

作成日 令和3年12月

作成者 寺西 加奈子

鞍月地区 くらつきかふえ

概況

開始時期	令和元年6月	活動場所	シェアマインド金沢
------	--------	------	-----------

ボランティア数	7名	利用料・参加費	ランチ 500円 コーヒー 200円
---------	----	---------	-----------------------

活動日時	毎月第2・4金曜日 11:00~13:30
------	-----------------------

活動対象	どなたでも
------	-------

活動内容	コミュニティカフェ
------	-----------

定例会の有無	有（第2・4水曜日）
--------	------------

平均利用者数・参加者数	20名
-------------	-----

具体的な取り組み

「人が集まり、ともに過ごし、つながりをつくっていく場」を目指して立ち上げました。コーヒーや、地元野菜を使ったランチ、おしゃべりを楽しみながら、自由な時間をゆっくりと過ごしてもらえるよう心がけています。

コロナ禍で活動を休止していましたが、「コロナ禍でもできることをやりたい」という思いから、飲食を伴わない集いの場として再開することを検討中です。

活動の様子



【どなたでもお越しください】

【大人気の手作りランチ】



<ボランティア・利用者の声>

- ・顔なじみの方がいるので、気軽に来ることができます。
- ・スタッフとして関わることで、ボランティア活動の楽しさが分かりました。

課題・今後の展望

<アピールポイント>

特にプログラムやイベント等は設けず、食事と交流を自由に楽しんでもらっています。

< 課 題 >

活動再開に備え、感染対策を徹底したいと思います。

参加者の固定化も課題と感じており、活動再開時には周知に力を入れて、いろいろな人が気軽に参加できる場にしていきたいです。

<今後の展望>

コロナ禍の長期化を見据えて、カフェの形にこだわらず「集いの場」として再開することを検討しています。



鞍月地区 地域福祉
支援コーディネーター
南野 宏一 氏

問い合わせ

鞍月地区社会福祉協議会 TEL 090-4328-1200

作成日 令和4年1月

作成者 寺西 加奈子

栗崎地区

ささえ愛隊・栗崎

概況

開始時期	平成31年4月	活動場所	栗崎地区
------	---------	------	------

ボランティア数	35名	利用料・参加費	無料
---------	-----	---------	----

活動日時	活動内容に応じて随時
------	------------

活動対象	栗崎地区在住の高齢者等
------	-------------

活動内容	ゴミ出し（週1回）、話し相手（月2回）、 玄関先の除雪（10cm以上降雪時）
------	---

定例会の有無	無
--------	---

平均利用者数・参加者数	34名
-------------	-----

具体的な取り組み

平成30年6月、65歳以上のひとり暮らしの方・高齢者世帯を対象に、ニーズ調査を実施したところ、「ゴミ出し・話し相手・玄関先の除雪」という意見が多く上がりました。この結果を踏まえ、活動内容を決定しました。

令和2年度は、ゴミ出し147件、話し相手24件、除雪104件の活動を行いました。

活動の様子



←民生委員とこまめに情報共有をしています

発足式にて、ボランティアの皆さんの集合写真を撮影しました↓



<ボランティア・利用者の声>

- ・「ありがとう!」「助かるわ!」といった心の交流がやりがいになっています。
- ・話し相手として訪問すると、とても喜ばれます。

課題・今後の展望

<アピールポイント>

民生委員とも情報共有しながら活動を行っています。

< 課 題 >

なるべく利用者と同じ町内のボランティアをマッチングしていますが、難しい場合もあります。若い方など、幅広い方に参加していただきたいです。

<今後の展望>

対象者や活動内容について、定例会を開催するなどして今後も検討を重ね、より良い活動にしていきたいと思っています。



栗崎地区社協会長
西尾 和喜雄 氏

問い合わせ

栗崎地区社会福祉協議会 TEL 076-238-3072

作成日 令和4年1月

作成者 寺西 加奈子

大野地区 つなげ隊おおの

概況

開始時期	令和3年4月	活動場所	大野地区
------	--------	------	------

ボランティア数	35名	利用料・参加費	無料
---------	-----	---------	----

活動日時	随時
------	----

活動対象	75歳以上の一人暮らし及び高齢者のみの世帯
------	-----------------------

活動内容	声掛け・安否確認、買い物、ごみ出し、話し相手
------	------------------------

定例会の有無	有
--------	---

平均利用者数・参加者数	20世帯
-------------	------

具体的な取り組み

声掛け・安否確認を対象世帯に随時行っています。

依頼があった場合に買い物・ごみ出し支援を行います。なるべく依頼者の近隣のボランティアをマッチングするよう話し合いを行います。

話し相手では、気軽に住民同士が話せる場として、大野地区にある3か所のお寺に協力を頂き、話題提供とおしゃべりをする「お寺で座談会」や食事とおしゃべりをする「ワンコイン食堂」を開催しています。

活動の様子

【おそろいのチームシャツ】



【お寺で座談会】

お寺を身近に！ 3箇所のお寺で開催



ありがたいお話と和気あいあい座談会



<ボランティア・利用者の声>

- ・「定期的に声掛けをしてもらえて安心する」、「みんなとおしゃべりができて楽しい」など利用者から喜んでいただいています。
- ・ボランティアの皆さんもやりがいを感じながら活動しています。

課題・今後の展望

<アピールポイント>

ボランティア同士仲が良く、みんなで協力して活動しています。

< 課 題 >

活動していく中でゴミ出しのニーズが高くなっています。

ボランティアの方に負担が増えすぎないように検討していきます。

<今後の展望>

ニーズがたくさん出てきているので、可能な範囲で対応したいです。



大野地区社協会長
紺田 健司 氏

問い合わせ

大野地区社会福祉協議会 TEL076-268-3896

作成日 令和4年1月

作成者 卯辰 一馬

金石地区

みやのこしサポート隊

概況

開始時期	令和元年11月	活動場所	金石地区
------	---------	------	------

ボランティア数	民生委員・まちぐるみ福祉活動推進員・ボランティア	利用料・参加費	無料
---------	--------------------------	---------	----

活動日時	随時
------	----

活動対象	金石地区に在住する高齢者や障害のある方等
------	----------------------

活動内容	話し相手、ゴミ出し、声掛けなど
------	-----------------

定例会の有無	無
--------	---

平均利用者数・参加者数	—
-------------	---

具体的な取り組み

令和元年5月に、75歳以上の高齢者を対象にしたニーズ調査をもとに活動内容を検討したところ、当初は「話し相手・ゴミ出し・声掛け」の3つからスタートすることになりました。

現在は、民生委員・まちぐるみ福祉活動推進員のみなさんを中心に、活動を行っています。

活動の様子



高齢者世帯 孤立防げ

金石でサポート隊発足

金石地区で18日、地区の高齢者世帯を支援する住民ボランティア「みやのこしサポート隊」が発足した。金石地区社会福祉協議会などが地域住民に呼び掛けた。高齢者の困りごとを助け、地域ぐるみで孤立防止を図る。

同協議会によると、金石地区のお年寄り支援するため集まった住民。金石会館

町校下の高齢化率は昨年4月時点で34%となり、市の平均値を上回っている。同協議会が今春、高齢者を対象に行ったアンケートでは「み出しに苦労している」「話し相手がほしい」などの意見が多く寄せられた。こつした高齢者を支援するため、住民ボランティアが1人暮らしの高齢者世帯を訪ね、み出しを手伝い、話し相手をする。高齢者から要望を受けて民生委員がボランティアを紹介する。金石会館で行われた発会式では、ボランティア9人のほか民生委員、町ぐるみ福祉活動推進員など約60人が出席した。同協議会の輪崎健司会長は「活動を通じて支え合いの輪を広げ、安心して暮らせる地域にした

【サポート隊発足式の新聞記事】

令和元年7月吉日

金石の「ちから」を募集します!

金石地区にお住いの皆様へ

金石地区社会福祉協議会
金石地区民生委員児童委員協議会
金石会館
長輪時健司連合会
金石町長 鶴山 仁

～つながり続ける石社のまちづくりにあなたも参加してみませんか～

金石地区地域安心生活支え合い事業

高齢者や障害のある方々に対し、日常のちょっとした困りごと（ゴミ出し・声掛け・話し相手）をお手伝いし、住民相互のコミュニケーションを深め、地域の活力づくりを目的に**ボランティア**を募集します。

- ▶年齢や性別は問いません。（中学生も可）
- ▶安心して活動していただくために、ボランティア活動保険に加入します。（金石地区社会福祉協議会で保険料を負担します）
- ▶関心のある方は、下記応募用紙にご記入下さい。後日、説明会のご案内をいたします。なお、随時、申し込みを受け付けています。【問合せ：金石地区社会福祉協議会 ☎267-2774】

金石地区「地域安心生活支え合い事業」ボランティア応募用紙

お名前(年齢)	住所	電話番号	応募する事業内容に ○を付けて下さい		
			ゴミ出し	声掛け	話し相手
()					
()					
()					
()					

各町会長様へお願い
担当民生委員児童委員が8月30日(金)に同級にお伺いしますので、それまでに取りまとめの程、宜しくお願ひ致します。

登録により取得した個人情報をボランティア活動に関する以外に使用しません。また、個人情報を事前に本人の同意を得ることなく外部に提供しません。

【サポート隊 隊員募集チラシ】

課題・今後の展望

< 課題 >

広報活動にも力を入れ、活動を活性化させていきたいと思ひます。

また、活動者が高齢化していることもあり、若い方にも参加してもらえようようにしていきたいです。

< 今後の展望 >

今後は、住民のみなさんの意見や希望を参考にしながら、活動内容をみんなで考えていきたいと思ひます。



金石地区社協会長
輪崎 健司 氏

問い合わせ
金石地区社会福祉協議会 TEL 076-267-2774

作成日 令和4年1月
作成者 卯辰 一馬

金石地区 お茶会

概況

開始時期	令和元年9月	活動場所	金石下相生町集会所 ひまわり
------	--------	------	-------------------

ボランティア数	5名	利用料・参加費	無料
---------	----	---------	----

活動日時	毎月第4金曜日 14:00~16:00
------	---------------------

活動対象	金石地区3町会（上・下相生町、相生町）在住の方
------	-------------------------

活動内容	コミュニティカフェ
------	-----------

定例会の有無	無
--------	---

平均利用者数・参加者数	5~6名
-------------	------

具体的な取り組み

令和元年5月、75歳以上の高齢者を対象にしたニーズ調査を実施したところ住民のみなさんが気軽に集える交流の場を要望する声があったことから、「コミュニティカフェ」を始めることになりました。

特にプログラムを設けず、お茶を飲みながら「おしゃべり」を楽しむカフェとなっています。

活動の様子



【集会所ひまわり】



【自由におしゃべりなどを楽しんでいます】

＜ボランティア・利用者の声＞

- ・気軽に参加できて、とても楽しいです。
- ・顔なじみの人が増えました。よかったです！

課題・今後の展望

＜アピールポイント＞

お茶やお菓子を食べながら、自由におしゃべりを楽しむ雰囲気で行っています。

＜課題＞

他の町会にも気軽に集まれる場を広げていきたいと思えます。

＜今後の展望＞

みなさんの意見も取り入れながら、カフェの時間を充実させていきたいと思えます。



金石地区社協会長
輪崎 健司 氏

問い合わせ

金石地区社会福祉協議会 TEL 076-267-2774

作成日 令和4年1月

作成者 卯辰 一馬

大徳地区

地域支援ボランティアすけっと隊

概況

開始時期	令和元年11月	活動場所	大徳地区
------	---------	------	------

ボランティア数	7名	利用料・参加費	無料
---------	----	---------	----

活動日時	随時
------	----

活動対象	大徳地区に在住する70歳以上でひとり暮らし世帯、高齢者夫婦世帯、高齢者のみの世帯、障害者世帯等
------	---

活動内容	ゴミ出し、雪かき、安否確認
------	---------------

定例会の有無	無
--------	---

平均利用者数・参加者数	7名
-------------	----

具体的な取り組み

対象者とボランティアは、事前に登録が必要です。

大徳地区社会福祉協議会で受付後、なるべく対象者宅の近隣のボランティアをマッチングしています。また、介護支援専門員から対象者の紹介を受け、ボランティアのマッチングもしています。また、町会単位でのボランティアグループを組織し、今年度は寺中町でモデルとして取り組みを開始します。

活動の様子

地域支援ボランティア 令和4年1月

寺中町すけっと隊 募集!

寺中町にお住まいの皆様へ



寺中町健寿会 会長 寺岡 健一
まちぐるみ福祉活動推進員 沖田 照男

～つながり続ける福祉のまちづくりにあなたも参加してみませんか～
大徳地区寺中町地域安心生活支え合い事業

寺中町にお住まいの高齢者や障害のある方に対し、燃やすゴミのゴミ出しのお手伝いをする「寺中町すけっと隊」を募集します。

ゴミ出しならできる!と思われる方、年齢や性別は問いません。寺中町在住の皆さんの参加をお待ちしています。関心のある方は、応募用紙にご記入の上、2月20日(日)までに下記あてご提出ください。後日、説明会のご案内をいたします。

『地域支援ボランティア寺中町すけっと隊』応募用紙 キリトリ線

お名前	住 所	電話番号	年 齢	備 考

登録により取得した個人情報をボランティア活動に関する以外に使用しません。また、個人情報を事前に本人の同意を得ることなく外部に提供しません。

＜提出先＞
町会の班長さんのポスト または、
沖田照男（まちぐるみ福祉活動推進員）まで
住所：寺中町ホ55の27
携帯：090-1639-2157
※ 班長さんは町会長へ提出して下さい。

【寺中町すけっと隊 隊員募集チラシ】



【隊員によるゴミ出しの様子】



【ボランティアのみなさん】

課題・今後の展望

< 課 題 >

積極的なPRを行いながら、活動を活性化させていきたいと思ひます。また、町会ごとにボランティアグループを作り、活動の幅を広げることが課題です。

< 今後の展望 >

若い方が参加してもらえるように、PRなどを充実させていきたいと思ひます。また、寺中町でもボランティアグループを組織し、ごみ出しに絞って活動をする予定です。



大徳地区社協会長
桑沢 義昭 氏

問い合わせ

大徳地区社会福祉協議会 TEL 076-268-5611

作成日 令和4年1月

作成者 卯辰 一馬

戸板地区

高齢者アンケートによる支え合い活動の提案

概況

開始時期	令和3年9月	活動場所	戸板地区
------	--------	------	------

ボランティア数	60名	利用料・参加費	—
---------	-----	---------	---

活動日時	令和3年9月8日～令和3年12月6日
------	--------------------

活動対象	戸板地区に住む75歳以上の方
------	----------------

活動内容	アンケート調査
------	---------

定例会の有無	無
--------	---

平均利用者数・参加者数	280名
-------------	------

具体的な取り組み

令和3年9月～12月に、75歳以上の高齢者を対象にしたニーズ調査を行いました。現在は民生委員児童委員・まちぐるみ福祉活動推進員のみなさん、地区社協役員、婦人会、老人会とで活動内容について検討を行っています。

活動の様子

【アンケート調査】



【アンケート調査に向けての打合せ】
調査に向けて関係者と話し合いました！



＜ボランティア・利用者の声＞

- ・アンケート調査を行うことで 75 歳以上高齢者のニーズを知ることができました。

課題・今後の展望

＜アピールポイント＞

地域全体でアンケート調査を行い、実態や傾向を把握していきます。

＜ 課 題 ＞

地区全体で取り組む事業のため、ボランティアの方々が可能な範囲で活動ができるよう検討していきます。

＜今後の展望＞

令和4年4月から活動できるように関係者と協議しながら進めていきたいと思ひます。



戸板地区社協会長
吉田 和夫 氏

問い合わせ

戸板地区社会福祉協議会 TEL076-223-8040

作成日 令和4年1月

作成者 卯辰 一馬

押野地区 ふれ合いカフェ光陽

概況

開始時期	平成31年4月	活動場所	押野西光陽会館
------	---------	------	---------

ボランティア数	6名	利用料・参加費	無料
---------	----	---------	----

活動日時	毎月第3金曜日 10時～12時（※二部制に分けて開催） 第1部 10時～11時、第2部 11時～12時		
------	--	--	--

活動対象	押野地区にお住いの方		
------	------------	--	--

活動内容	茶話会、歌、クイズ、脳トレ等		
------	----------------	--	--

定例会の有無	無
--------	---

平均利用者数・参加者数	約25名～30名
-------------	----------

具体的な取り組み

集会所を活用したコミュニティカフェを立ち上げました。コロナ禍でも出来るように人数制限や二回に分けて開催する等工夫しています。

今後は回を重ねていく毎に互いに小さな困りごとにも気軽に相談でき、地域で支え合える「憩いの場」「ふれあいの場」「集いの場」を目指しています。

活動の様子



【おしゃべりが元気の素になっています】



【令和2年度に作成したチラシ】



【今後の開催日程】

10月	11月	12月	2月	3月
16日	20日	11日	19日	19日

日時：毎月第3金曜日（変更有）
10:00～11:00
（いつでもお越しください）
場所：押野西光陽会館
参加費：無料 押野地区地域安心生活支え合い事業

＜ボランティア・利用者の声＞

- ・地域でおしゃべりできる居場所として気軽に来てもらい、今はコロナ禍でできませんが、お茶やお菓子を飲食しながら自由におしゃべりを楽しんでもらいたいです。また、ちょっとした困りごとを話せる居場所にしていきたいです。

課題・今後の展望

＜アピールポイント＞

プログラムは用意せず、おしゃべりを楽しんでもらっています。

また、気軽に来てもらえるように入退りは自由にしています。

男性の参加が少ないことや、地域の方にこのような居場所があることを認知してもらうことが課題になっています。

＜今後の展望＞

地域の各種関係者も巻き込んで、コミュニティカフェをもっと地域に拡充していきたいです。

もう1カ所でコミュニティカフェを立ち上げ検討中。

コロナが早く終息し、元の活動に戻りたいです。



責任者

岸 吉清 氏



押野地区社協会長

北間 駿一 氏

問い合わせ

押野地区社会福祉協議会 TEL 076-247-0856

作成日 令和4年1月

作成者 畔田 晴美

西南部地区

地区に広がるコミュニティカフェ



西南部地区では、地区全体を対象として児童館で実施している「地域サロン」と、各地区で実施している「コミュニティカフェ」を連携させながら活動しています。

現在「コミュニティカフェ」は、上記地図に表示している4地区で開催しています。新たに西金沢新町東町会でも、定例開催に向けて検討中です。各コミュニティカフェの運営ボランティアには、地区民生委員やその経験者が含まれており、民生委員の活動や情報と連携させた効果的な運営に心がけています。

また、「地域サロン」の運営にも民生委員が携わり、年数回の「地域サロン」と「コミュニティカフェ」の担当者の情報交換会を設定し、互いの情報を交換しながら効果的な運営が可能になっています。特に昨今のコロナ禍における運営の在り方については、開催の是非も含め、開催方法や活動内容について、地区で統一した方向性になるよう協議しています。

現在、昨年10月から部分的に再開した「地域サロン」を皮切りに、各「コミュニティカフェ」も活動再開に向けて動き出しているところですが、第6波を受け、気を引き締めているところです。



西南部地区社協会長
新保 修 氏

概況

- ①西金沢3丁目サロンほほえみ ②古府南第1いどばたカフェ
 ③新保本よるまい会 ④古南サロンよってみっかいネ

開始時期	①平成28年6月	③平成29年11月
	②平成29年10月	④平成30年4月

活動場所	①西金沢西部会館	②古府町南第2集会所
	③新保本町会館	④古府町南第2集会所

ボランティア数	①10名	②6名	利用料・参加費	200円
	③7名	④5名		

活動日時	①第3日曜日 10:00~11:30	②第3月曜日 10:00~11:30
	③第1日曜日 10:00~11:30	④第2日曜日 10:00~11:30

活動対象	①西金沢3丁目町会の方	②古府南第1町会の方
	③新保本町会の方	④古府町南第2町会の方

活動内容	茶話会、季節の行事、歌、手作り、講師を招き健康についてのお話や体操、DVD鑑賞、体操、クイズ 等
------	--

定例会の有無	原則年1回 2月（必要に応じて開催）
--------	--------------------

平均利用者数・参加者数	①20名	②18名
	③10名	④20名

具体的な取り組み

地域サロンに行けない方のために、歩いて来ることが出来る距離にある町会の集会所を活用し居場所を創りました。高齢者だけでなく子どもも参加しており、世代間をこえた交流の場となっています。気軽に何でもお話しできるため、情報交換や仲間づくり、相互の見守りの場にもなっています。

①西金沢3丁目サロンほほえみ



<ボランティア・利用者の声>

- ・公民館や児童館のサロンに参加したくても、足腰が弱くて距離もあるので行くことができなかったです。近所にこうして集まっておしゃべりを楽しめる場所があるのは助かります。

課題・今後の展望

<アピールポイント>

話ができるだけで楽しい居場所となっています。
公民館の文化祭に手作りした作品を出展しています。

< 課 題 >

会館以外の場所での開催も考えており、移動手段を検討していく必要があります。

<今後の展望>

今後は会館だけでなく、外出や小旅行等を通して、参加者同士で親密となり、ここに来てよかったと思えるような居場所にしていきたいです。



ボランティアのみなさん

②古府南第1いどばたカフェ



<ボランティア・利用者の声>

- ・カフェをしたいと友達に相談したら、協力するとみんなが言ってくれたから出ています。
- ・ここに来ればいろんな情報も入るし、気になる方は普段の生活の中でも見守りしています。やっぱり常日頃のつながりや付き合いが大切だと思っています。

課題・今後の展望

<アピールポイント>

いどばたカフェ通信を作成し、活動の広報をしています。
カフェで手作りしたものを公民館の文化祭に出品しています。

<課題>

参加者が固定化してきていることが課題になっています。

<今後の展望>

みんなが気軽に集まり、悩みがあれば相談できる居場所にしていきたいです。また、地域で解決もできる居場所を目指しています。



ボランティアのみなさん

③新保本よるまい会



<ボランティア・利用者の声>

- ・一人暮らしだと、おしゃべりする機会が少ないため、こうした場所があればおしゃべりできるので楽しいです。
- ・近所の情報も知る事ができるし、交友も広がりました。

課題・今後の展望

<アピールポイント>

近隣の病院・施設の方や地域で特技を持った方と連携して開催をしています。

<課題>

参加者の固定化が課題になっています。もっと多くの方に参加していただきたいです。

<今後の展望>

抱えている悩みや困りごとを何でも話すことができ、地域力で解決できる居場所にしていきたいです。



ボランティアのみなさん

④古南サロンよってみっかいネ



<ボランティア・利用者の声>

- ・家にいるとしゃべることもないので、ここに来ておしゃべりするのは楽しいです。
- ・顔見知りが増えて交流も広がりました。
- ・いつも来ている方が来ていないときは気になるし、こうして集まれるからこそお互いを気に掛け合う関係にもなっています。

課題・今後の展望

<アピールポイント>

毎月回覧でお知らせをしています。
参加者同士で声をかけあって参加しています。

< 課 題 >

参加者の固定化が課題になっています。
男性の参加者が少なく、参加をどう促すかが悩みです。

<今後の展望>

地域のいろいろな方に参加してもらい、気軽になんでも話せる居場所にしていきたいです。



ボランティアのみなさん

問い合わせ

西南部地区社会福祉協議会 TEL 076-240-3878

作成日 令和4年1月

作成者 畔田 晴美

三和地区

生活支援の仕組みづくりの検討

概況

開始時期	令和3年度	活動場所	三和公民館
------	-------	------	-------

ボランティア数	—	利用料・参加費	—
---------	---	---------	---

活動日時	—
------	---

活動対象	三和地区に暮らす高齢者世帯等（予定）
------	--------------------

活動内容	生活の困りごとに対応できる生活支援の仕組みづくりの検討
------	-----------------------------

定例会の有無	—
--------	---

平均利用者数・参加者数	—
-------------	---

具体的な取り組み

仕組みを検討するにあたり、地域福祉支援コーディネーターを設置し、三和地区および近隣で行われている支援サービスを調査。その結果に基づき地区社協、連合町会、市社協、地域包括支援センター等が参加して意見交換会を開催しました。高齢者世帯が抱える困りごと調査の方向性が示され、その後は民児協も加わってアンケート案等の検討を行いました。

活動の様子



課題・今後の展望

<アピールポイント>

元気高齢者が活躍できる仕組みになってほしいと考えています。

< 課 題 >

生活支援の仕組みづくりの必要性を高齢者だけでなく青壮年世代にも認知して頂くよう、連合町会、老人会、各種団体との協議を丁寧に行う必要があり、支える人探しが課題と考えています。

<今後の展望>

アンケートを集計し、民児協・民生委員・まちぐるみ福祉活動推進員等と組織全般について協議したうえで、組織の立ち上げと実施を目指します。



三和地区社協会長

村田 健氏

問い合わせ

三和地区社会福祉協議会 TEL 076-240-7831

作成日 令和4年1月

作成者 畔田 晴美

長町地区 いーねカフェ

概況

開始時期	平成29年4月	活動場所	長町公民館
ボランティア数	3名程	利用料・参加費	無料
活動日時	奇数月第2木曜 13:30~15:30		
活動対象	長町地区にお住いの65歳以上の方		
活動内容	茶話会、歌、ゲーム等 + 季節に合った企画		
定例会の有無	無		
平均利用者数・参加者数	20~25名		

具体的な取り組み

近隣の内科医による研修会（介護予防等に関する内容）をきっかけに、地区とすることができることから始めてみたいという思いから、このカフェを立ち上げました。おしゃべりをしたりお茶をしたり、ゲーム等を楽しんだり…参加者が自由に過ごせることがここの特徴です。また、公民館が地区の真ん中に位置しているため、どのエリアにお住まいの方も参加しやすくなっています。

活動の様子



<ボランティア・利用者の声>

・お手伝いの当番は特に決めず、参加者同士でお世話し合っ、自分たちでカフェづくりをしています。1月はその年の初回なので企画を考えますが、基本は百人一首やランプ、折り紙等を用意して、自由に遊ぶ時間を楽しんでいます。“何もしない”がコンセプト。「気を張らずに過ごせるわ(^)」と喜ばれています。(ボランティアKさん)

課題・今後の展望

<アピールポイント>

誰でも参加しやすいように、参加費は無料、会場は公民館としました。また、歌が好きな人が多く、カフェの最後にみんなで何曲か合唱しています。参加者からは好評なのですが、コロナ禍のため現在は休止しています。

< 課題 >

参加者の高齢化・固定化が進んできたこと、男性参加者が少ないことが集いの場を運営する中で抱えている課題です。

<今後の展望>

新しい参加者、特に男性参加者を増やしたいです。また、なかなか外に出こない人に積極的に声掛けしていきます。



長町地区社協
岩井会長、西高事務員
長町地区民児協 越田会長

問い合わせ

長町地区社会福祉協議会 TEL 076-231-5730

作成日 令和4年1月

作成者 小鍛治 康生

長土塀地区

福祉ニーズ調査による新たな活動の提案

概況

開始時期	令和3年10月	活動場所	—
------	---------	------	---

ボランティア数	—	利用料・参加費	—
---------	---	---------	---

活動日時	—
------	---

活動対象	長土塀地区の75歳以上の方がいる世帯
------	--------------------

活動内容	福祉ニーズ調査を企画し、生活実態や困りごとの傾向を調査実施。調査結果を踏まえ、新たな取り組みを検討する。
------	--

定例会の有無	—
--------	---

平均利用者数・参加者数	—
-------------	---

具体的な取り組み

福祉ニーズ調査を実施したところ、地域サロンやオレンジカフェなど地域の集いの場については、半数以上の方が知らないことがわかりました。また、知っているにもかかわらず参加したことがない方が8割を超えることが判明しました。

現在の地域サロンについては、参加者が多いため、新たにコミュニティカフェを開催する方向で検討しています。

活動の様子

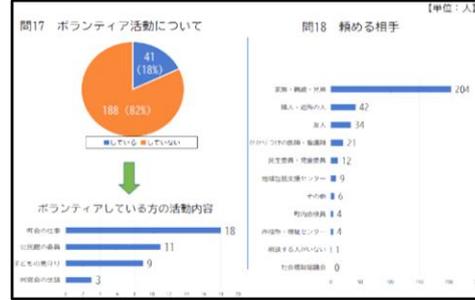
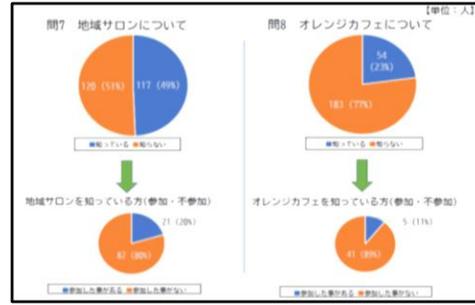
長土塀地区地域安心生活支え合い事業
福祉ニーズ調査 集計結果

長土塀地区社会福祉協議会
社会福祉法人金沢市社会福祉協議会

調査概要

調査期間：令和3年10月1日～12月16日
調査方法：民生委員が対象者宅を訪問し直接配布した。
後日、訪問し回収した。

対象者：長土塀地区 75歳以上の方がいる世帯 606世帯
回答者：243名（回収率 約40%）



<ボランティア・利用者の声>

- ・地域サロンのことを知っていても参加したことがない方が多いと分かった。もっと声をかけをしたいと思います。（民生委員）
- ・コミュニティカフェとして集いの場を開催すれば、誰でも気軽に来ることができる。ボランティアをしていない方が多いので、新たな担い手になってもらえると良い。（民生委員）
- ・ニーズ調査をきっかけに新たな活動に取り組みたい。（地区社協）

課題・今後の展望

<アピールポイント>

地区社協の事務局がこども園に併設されているのが、長土塀地区の特色です。新型コロナウイルスが収束すれば、こども園とも連携して集いの場を開催したいです。

<課題>

話し相手ならできると思っている方がおられるので、活動の中心となる方や新たなボランティアの集め方が課題です。



長土塀地区社協会長

<今後の展望>

当面は毎月1回、土曜日で開催しているママカフェにあわせて、片岡 正子 氏 新たな集いの場としてコミュニティカフェを開催したいと考えています。

問い合わせ

長土塀地区社会福祉協議会 TEL 076-231-1755

作成日 令和4年2月

作成者 小鍛治 康生

芳斉地区

芳斉ボランティアの会

概況

開始時期	令和元年 11 月	活動場所	芳斉地区全域
------	-----------	------	--------

ボランティア数	20 名程	利用料・参加費	無料
---------	-------	---------	----

活動日時	随時、依頼があったとき
------	-------------

活動対象	芳斉地区にお住まいの 75 歳以上の方
------	---------------------

活動内容	困りごとのお手伝い（ゴミ出し、話し相手、雪かき等）
------	---------------------------

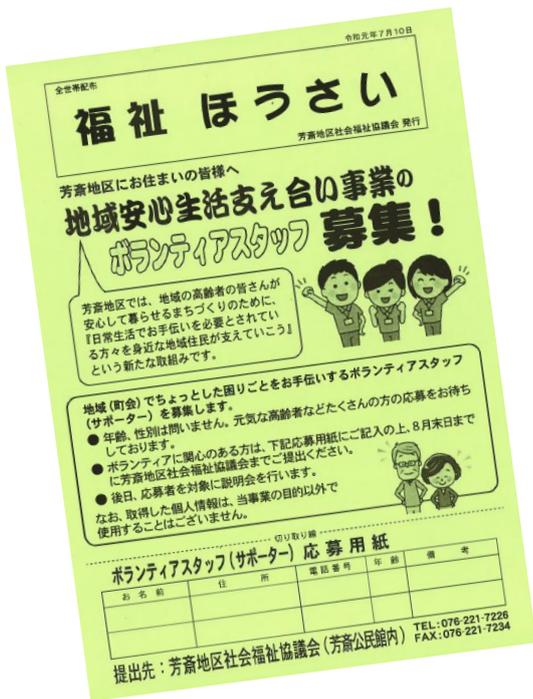
定例会の有無	年 2 回実施予定
--------	-----------

平均利用者数・参加者数	—
-------------	---

具体的な取り組み

事業に取り組むにあたってアンケート調査を行った結果、従来から自然発生的に取り組んでいた“お手伝い”“助け合い”の文化が地区内のあちらこちらにあり、これからも継続していきたいという意見が多数寄せられました。特にゴミ出しについては、向こう三軒両隣の関係の中で協力し合っています。そこで、現在行われている活動をボランティアの仕組みとして位置付けることにしました。

活動の様子



<ボランティア・利用者の声>

・ゴミ出しや生協の共同購入等を通して、近所同士での顔合わせの機会が意外あるんですよね。地域・近所のつながりで様子を知ることができます。高齢者のお手伝いをするばかりではなく、こちらも助けられています。(地域福祉支援コーディネーターOさん)

課題・今後の展望

<アピールポイント>

自然発生的に行われている活動を活かすことで、お互い気兼ねのない関係から気軽な支え合い関係に発展させていきます。

< 課 題 >

マンション在住高齢者の困りごとの把握に難しさを感じています。町会が組織されているマンションをモデルにして75歳以上の高齢者の台帳を作成し、見守り・声かけ活動を強化します。

<今後の展望>

自主的に行われている活動を掘り起こし、活動範囲を拡大して活発化させていきたいと考えています。



芳斉地区社協 虎井会長、松田事務員 扇氏 (地域福祉支援コーディネーター)

問い合わせ

芳斉地区社会福祉協議会 TEL 090-1528-7226

作成日 令和4年1月

作成者 小鍛治 康生

長田地区

長田てつだい隊

概況

開始時期	平成29年5月	活動場所	長田地区
------	---------	------	------

ボランティア数	18名	利用料・参加費	無料
---------	-----	---------	----

活動日時	随時
------	----

活動対象	長田地区在住の一人暮らし高齢者（65歳以上）、高齢者のみの世帯、障害者世帯
------	---------------------------------------

活動内容	ゴミ出し、電球交換、草むしり、除雪など
------	---------------------

定例会の有無	無
--------	---

平均利用者数・参加者数	10名
-------------	-----

具体的な取り組み

利用会員とボランティアは、事前に登録が必要です。

長田地区社会福祉協議会で受付後、なるべく対象者宅の近隣のボランティアをマッチングしています。

また、令和3年度にてつだい隊の認知度や除雪に対する実態や要望等の把握のため、集合住宅を除く222世帯の70歳以上の一人暮らしの方と高齢者のみの世帯にハガキによるアンケート調査を実施しました。

活動の様子

除雪アンケート (該当項目にチェック)

長田てつだい隊の活動を知っていますか

知っている
 知らない

玄関先の除雪について

自分でできる (質問は以上です)
 自分ではできない (次にお進みください)
 する必要がない (質問は以上です)

2と答えた方

家族や知り合いに頼む
 業者に頼む
 近所に頼める人がいる
 除雪しないで放置している

長田てつだい隊は無料で玄関先の除雪やゴミ出しなどをしますが、頼みたいと思いますか

頼みたい
 頼みたくない
理由 ()
 必要がない

【玄関先除雪アンケート調査ハガキ】



＜玄関先除雪アンケート調査結果＞

- 回収率…49%
- てつだい隊認知度…61%
- 玄関先除雪ができない割合…28%
- そのうち、てつだい隊に依頼したい割合…80%



【除雪作業の様子】

ごみ出しや草むしりも行っていきます！

課題・今後の展望

＜アピールポイント＞

あまり無理をせず、できる範囲で活動をしています。

＜課題＞

アンケート結果を踏まえ、今後の活動を活性化させていきたいと思っています。

＜今後の展望＞

他の機関とも連携・協力をしながら活動をしていきたいと思っています。住民のみなさんから、気軽に頼んでもらえるような存在になりたいと思っています。



長田地区社協会長
橋 昭男 氏

問い合わせ

長田地区社会福祉協議会 TEL 076-223-8400

作成日 令和4年1月

作成者 卯辰 一馬

西地区

高齢者の見守り活動

概況

開始時期	平成29年	活動場所	西地区全体
------	-------	------	-------

ボランティア数	67名	利用料・参加費	無料
---------	-----	---------	----

活動日時	随時
------	----

活動対象	西地区にお住まいの方
------	------------

活動内容	地域全体でのひとり暮らし高齢者等への見守り活動など
------	---------------------------

定例会の有無	無
--------	---

平均利用者数・参加者数	—
-------------	---

具体的な取り組み

平成29年11月、ひとり暮らしの方・高齢者世帯を対象にニーズ調査を実施したところ、「除雪が大変」「集う場所がほしい」「話し相手がない」という意見が多く上がりました。そこで「声掛け・見守り」活動により、顔見知りを増やすことから始めました。現在は、民生委員・まちぐるみ福祉活動推進員・ウエストサークルボランティアのみなさんを中心に活動しています。

令和4年度には「集う場所」としてコミュニティカフェを開設予定です。

活動の様子

ボランティア募集中

【西淀下の皆さん、ご一読ください】

いつもは西淀下の社会福祉協議会に、ご挨拶ご協力をお願いありがとうございます。さて、先ほど行われました「地域安心支え合い事業」の応募者アンケートの結果を踏まえて、西淀下社会福祉協議会や西淀下町会連合のご協力・ご支援を賜ながら、西淀下の両岸に合った高齢者のサポートをしていきたいと思っております。つきましては、簡単な事（登録交換、訪問の呼びかけ等）なら平気な方、思いやられる方々を、募集する事に致しました。少しでもボランテアとしてボランティアへの参加意欲が有る方は下記へご記入の上ご連絡ください。元気な応募者・学生さんORです。

あなたの優しい気持ちを、西淀下の為に少しだけ分けてください。

本格的にボランティア活動をやりたい方はこちら

(仮称) **ちよっこし応援団**

お名前	年齢	住所	連絡先電話番号

大した事は出来ないので、おまわりのご協力・ご協力でも、のんびりこちら

(仮称) **ちよっこし応援支隊**

お名前	年齢	住所	連絡先電話番号

詳しくは西淀下社会福祉協議会（西淀下町会）へお電話ください。TEL: 076-262-3185 又は Fax: 076-262-3185 して下さい。
 ・メールは必要事項を書いて nishikita@seiohkan.or.jp へ送ってください。
 後日改めてご連絡させていただきます。



↑ ボランティアによる情報交換を開催

←チラシを班回覧してボランティアを募集

< ボランティア・利用者の声 >

- ・さりげない挨拶や声掛けを行うことを意識しています。
- ・常に気にかけて、定期的に訪問してもらえるのが嬉しいです。

課題・今後の展望

< 課題 >

ボランティアの固定化・高齢化が課題と感じています。今までボランティアをしたことがない方や、若い方など幅広い住民に参加してもらいたいと思っています。

< 今後の展望 >

「声掛け・見守り活動」と並行して、令和4年度から月2回、コミュニティカフェを開催するべく準備を進めています。地域の方が気軽に集える場所として、定着させていきたいと考えています。



西地区社協会長
杉本 雅宏 氏

問い合わせ

西地区社会福祉協議会 TEL 076-262-6716

作成日 令和4年1月

作成者 卯辰 一馬

米丸地区

あんやと会（玉鉾2丁目・黒田伏見丘）

概況

開始時期	①平成26年7月 ②平成27年	活動場所	①玉鉾2丁目町会 ②黒田伏見丘町会
------	--------------------	------	----------------------

ボランティア数	①24名 ②40名	利用料・参加費	無料
---------	--------------	---------	----

活動日時	①第2・第4木曜日 あんやとカフェ終了後 随時 ②随時
------	--------------------------------

活動対象	75歳以上の「一人暮らし高齢者」、「高齢者夫婦」
------	--------------------------

活動内容	友愛訪問、安否確認、ゴミ出し、話し相手、玄関前の雪かき、ちょっとしたお手伝い等
------	---

定例会の有無	①第2・第4木曜日 ②なし
--------	------------------

平均利用者数・参加者数	8名
-------------	----

具体的な取り組み

安否確認として、民生委員が気になっている方を定期的に訪問しています。また、定例会と定めているわけではないが、あんやとカフェが終わった後に、民生委員とあんやと会メンバーで困りごとや気になることを話し合い、情報の共有を図っています。

活動の様子



<ボランティア・利用者の声>

- ・声掛けなどが近所と交流するきっかけになっています。
- ・訪問してくれるのは嬉しいです。見守られているという安心感があります。

課題・今後の展望

<アピールポイント>

『ちょっとのお節介』をキーワードに普段の生活の中でお互いを気に掛け合う『向こう三軒両隣の関係』を大事にしています。

< 課 題 >

活動を広げていくために、町会や各種関係者と協議を実施していく必要があります。

<今後の展望>

活動を多くの方に知ってもらい、地域全体でお互いを気に掛け合う関係を構築していきたいです。



米丸校下社協会長
川元 博 氏

問い合わせ

米丸校下社会福祉協議会 TEL 076-291-2947

作成日 令和4年1月

作成者 畔田 晴美

米丸地区 あんやとカフェ

概況

開始時期	平成29年7月	活動場所	食工房 三会
------	---------	------	--------

ボランティア数	24名	利用料・参加費	400円
---------	-----	---------	------

活動日時	第2・第4木曜日 15:00~16:00
------	----------------------

活動対象	米丸校下にお住いの方
------	------------

活動内容	茶話会
------	-----

定例会の有無	第2・第4木曜日
--------	----------

平均利用者数・参加者数	8名
-------------	----

具体的な取り組み

町内に集える場がなく、近所の方が気軽に集まれる場があったらいいのにとの思いがきっかけでカフェを立ち上げました。

あんやと会のメンバーの一人がカフェをしており、そのスペースを集いの場として開放しています。無料だと気兼ねになるとの声から、参加費を400円とし、気兼ねなく来てもらえるようにしています。

活動の様子



<ボランティア・利用者の声>

- ・ここに集まっておしゃべりすることが情報交換の場になっています。
- ・近所の事などをみんなで共有して、気になる人たちに声掛けをしています。

課題・今後の展望

<アピールポイント>

気軽に来ておしゃべりができる居場所となっています。
また、町会等各種関係者も協力して運営しています。

<課題>

男性の参加が少ないことと、時期によっては参加者が少なくなることが課題になっています。

<今後の展望>

多くの方に居場所があることを知ってもらい、こどもから高齢者まで、気兼ねなく来てもらえる居場所にしていきたいです。



ボランティアのみなさん

問い合わせ

米丸校下社会福祉協議会 TEL 076-291-2947

作成日 令和4年1月

作成者 畔田 晴美

二塚地区

移動スーパーでミニサロン

概況

開始時期	令和3年12月	活動場所	個人宅 サンケア赤土
------	---------	------	---------------

ボランティア数	3名	利用料・参加費	無料
---------	----	---------	----

活動日時	毎週金曜日3時～
------	----------

活動対象	二塚地区の方
------	--------

活動内容	買い物支援、見守り
------	-----------

定例会の有無	随時開催
--------	------

平均利用者数・参加者数	9名
-------------	----

具体的な取り組み

高齢者の方々にアンケートを実施した結果「買い物の代行を頼みたい」との回答が数多く見られました。そこで、移動スーパーとくし丸に声をかけ、まずは必要との声が多い町会であった専光寺町でスタートすることになりました。今後は他の町会でも必要とされる方が何名いるのか調査を行い、移動スーパーの拠点を広げていく予定です。

活動の様子



<ボランティア・利用者の声>

- ・買い物だけでなく、地域のコミュニティの場にもなっており喜ばれています。
- ・久しぶりに顔を見ることができ、お互いの安否確認にもなっています。
- ・お刺身が買えるので嬉しい。毎週金曜日が楽しみになっています。

課題・今後の展望

<アピールポイント>

自分で見て、自分で選べることで生き生きと楽しそうに買い物をしています。また、移動スーパーを待っている時間はおしゃべりを楽しんでおり、即席のサロンになっています。

<課題>

買い物支援の周知をしていく必要があります。町会や各種団体に協力してもらいもっと広げていきたいです。

<今後の展望>

近所の方々と声を掛け合いながら、自然に助け合える街づくりを目指し、つながりを強化していきたいです。



二塚地区社協会長

池田 功 氏

問い合わせ

二塚地区社会福祉協議会 TEL 076-249-3474

作成日 令和4年1月

作成者 畔田 晴美

安原地区

地域貢献と美化活動

概況

開始時期	令和3年4月	活動場所	—
------	--------	------	---

ボランティア数	—	利用料・参加費	—
---------	---	---------	---

活動日時	—
------	---

活動対象	—
------	---

活動内容	美化活動（清掃活動）、花植え活動
------	------------------

定例会の有無	—
--------	---

平均利用者数・参加者数	—
-------------	---

具体的な取り組み

美化活動（清掃活動）および花植え活動を実施するにあたり、民生委員や包括支援センターにアンケート調査を実施しました。また、近隣の社会福祉法人の施設へ声かけを行い、お互いが連携して活動を進めていくことができないか模索しています。

活動の様子

安原地区地域安心生活支え合い事業 民生委員アンケート	
1. 調査目的	安原地区社協では地域での支え合いの仕組みとして、町内美化活動への高齢者の参加促進による生きがいづくりを検討しています。ニーズ量を把握するため、友愛訪問対象者（ひとり暮らし世帯・高齢者のみ世帯）に関して皆さんが把握している情報を教えてください。
2. 町内美化活動に関して（内容：バス停周りの清掃、花植え活動、町内清掃活動など）	
① ご自身で把握している範囲で町内美化活動に参加または興味関心のありそうな方はいますか	いる（人程） ・ いない
② 担当エリア内で町内美化活動を企画するとすれば、どこでどのような活動が考えられますか（例：●●の前の歩道沿いにプランター設置、停留所周辺のゴミ拾い など）	
③ どのような方法ではじめると良いと思いますか	モデル町会で企画活動 ・ 特定の高齢者を中心にグループ化し活動 校下全体に参加者を募り活動 ・ その他（ ）
④ 町内美化活動に関して気にかかること・不安なことがあれば教えてください	
3. その他	高齢者福祉保健台帳一斉調査時に把握した情報で、地域全体で考えた方が良い情報があれば教えてください

安原地区地域安心生活支え合い事業 民生委員アンケート結果							
町内美化活動に関して ①ご自身で把握している範囲で町内美化活動に参加または興味関心のありそうな方はいますか							
<p>【ご自身で把握している範囲で町内美化活動に参加または興味関心のありそうな方はいますか】</p> <table border="1"> <tr> <td>わかりません 10.0%</td> <td>2〜3人程 ・ 2件</td> </tr> <tr> <td>いる 40.0%</td> <td>10人程 ・ 11件 (老人会会員 50名程度)</td> </tr> <tr> <td>いない 50.0%</td> <td>30人程 ・ 11件 (町会で月1回の清掃)</td> </tr> </table>	わかりません 10.0%	2〜3人程 ・ 2件	いる 40.0%	10人程 ・ 11件 (老人会会員 50名程度)	いない 50.0%	30人程 ・ 11件 (町会で月1回の清掃)	
わかりません 10.0%	2〜3人程 ・ 2件						
いる 40.0%	10人程 ・ 11件 (老人会会員 50名程度)						
いない 50.0%	30人程 ・ 11件 (町会で月1回の清掃)						
②担当エリア内で町内美化活動を企画するとすれば、どこでどのような活動が考えられますか							
<ul style="list-style-type: none"> ・ 道路沿いのゴミ拾い。（海幹、いなほ工業団地への8m道路） ・ 町会で（美土里の会みどり）があり、年3回ほど花植え、町内清掃の活動をしているので、改めはしないと思います。 ・ 植栽のスペースの草むしり。神社の落葉清掃。空き家周辺の草刈り。 ・ 児童公園、トイレ。 ・ ゴミ拾い。 ・ バス停にプランター設置し、金沢市からの花の苗を植える（年2回） 役員による花の水やり、バス停内のゴミ拾い（各バス停を清掃する町会が不明） ・ 町会によっては個人で花植えをしている人がいます。 ・ 地域内道路及び河川護岸の散歩道の除草。 							

<ボランティア・利用者の声>

- ・ 町会や各種関係者と協力し、継続性を持って活動していきたいです。

課題・今後の展望

<アピールポイント>

地域で行っている既存の活動の充実化に加え、近隣の福祉施設等と協力し、取り組みを進めていきたいです。

<今後の展望>

地域貢献活動と美化活動を一体に行うことで地域住民への役割創出や社会参加のきっかけとして展開していけないか検討しています。



安原地区社協会長
川原 立人 氏

問い合わせ

安原地区社会福祉協議会 TEL 076-249-0772

作成日 令和4年2月

作成者 畔田 晴美

新豎地区

そくさいカフェこまちなみ

概況

開始時期	平成27年9月	活動場所	円徳寺
ボランティア数	サポーター40名 のうち15名	利用料・参加費	200円
活動日時	毎月第3木曜日 10:00~11:30		
活動対象	新豎地区にお住まいの方		
活動内容	コミュニティカフェ（30分講演 + 談話）		
定例会の有無	そくさいサポーター定例会（年6回）		
平均利用者数・参加者数	40~50名		

具体的な取り組み

お寺を会場にすることで、参加する高齢者にとってはどこか懐かしさを感じる空間となっていて、みなさんリラックスした表情でおしゃべりを楽しまます。

このカフェには、地区内にあるリハビリテーションアカデミー（専門学校）の学生が授業の一環で参加します。学生にとっては高齢者とのコミュニケーションを学ぶ場、高齢者にとっては学生とのコミュニケーションを楽しむ場として、お互いに充実した時間を過ごしています。

活動の様子



<ボランティア・利用者の声>

- いろいろな人との交流は、参加者にとってもサポーターにとっても、良い刺激になっています。企画を考え、カフェ当日に参加者の喜ぶ顔を見たりすることが毎回楽しみです。元気なうちから集っておしゃべりすることの大切さを実感しています。もっとたくさんの人との出会いの場にしていきたいです。(担当サポーターリーダーMさん)

課題・今後の展望

<アピールポイント>

全世代を参加対象者としているので、世代間交流の場になっています。講演や演奏などが終わったあと、季節の美味しい茶菓子も楽しみの1つになっています。

< 課 題 >

コロナの影響もあり、参加者の人数を制限しながら、会場の設置状況や感染対策などを検討する必要があります。

<今後の展望>

もっと身近に利用してもらえるために、新たにもう1か所（お寺など）で開設できないか検討中！



新竪地区社協会長
笠間 啓氏

問い合わせ

新竪地区社会福祉協議会 TEL 076-231-0258

作成日 令和3年12月

作成者 野口 茉衣

新豎地区 買い物んいくまい会

概況

開始時期	平成27年9月	活動場所	イオンもりの里
------	---------	------	---------

ボランティア数	サポーター40名 のうち7名	利用料・参加費	無料
---------	-------------------	---------	----

活動日時	毎週水・金曜日 10:00頃～
------	-----------------

活動対象	新豎地区にお住まいの75歳以上の方 (ひとり暮らし・夫婦のみ世帯の方)
------	--

活動内容	買い物・移動支援
------	----------

定例会の有無	そくさいサポーター定例会(年6回)
--------	-------------------

平均利用者数・参加者数	1回5名程(毎月40名程度)
-------------	----------------

具体的な取り組み

新豎地区内を4ブロックに分けて1ブロックにつき月2回実施。利用者は各ブロックの集合場所でバスに乘車し、イオンもりの里へ。担当サポーターや運転手さんと一緒にそれぞれ買い物を楽しまします。帰りは自宅前まで送ってもらえるので、重い荷物も気軽に買うことができ、利用者に大変喜ばれています。また、行き帰りのバスの中もひとつの集いの場としてにぎわっています。

活動の様子



<ボランティア・利用者の声>

- ・バス内での参加者同士の会話から見守りが必要な方の近況や変化等さまざまな情報が入ってきます。サポーターから担当民生委員に様子を伝えることで継続した見守りにつながっています。支援者にとっても貴重な場です。(担当サポーターMさん)

課題・今後の展望

<アピールポイント>

帰りは自宅前でバスを止め、大きな荷物を運ぶときはサポーターや運転手さんがお手伝いしてくれます。「帰りの心配をせずに買い物ができるので嬉しい!」と参加者から大好評です。

<課題>

認知症の症状がある方へ予定日の事前連絡や、バスの乗降時、移動中の怪我など見守りが必要となっています。

<今後の展望>

活動のPRを工夫して、新たな担い手の確保と支援を必要とする方の発掘につなげたいです。



新塲地区民児協 大橋会長
松本氏 (民生委員兼サポーター)

問い合わせ

新塲地区社会福祉協議会 TEL 076-231-0258

作成日 令和3年12月

作成者 野口 茉衣

小立野地区

見守りキーホルダーと地域行事パンフレット（仮称）づくり

概況

開始時期	令和元年度	活動場所	小立野地区全域
------	-------	------	---------

ボランティア数	—	利用料・参加費	無料
---------	---	---------	----

活動日時	—
------	---

活動対象	小立野地区在住高齢者 (キーホルダー登録者令和3年12月時点約130名)
------	---

活動内容	・小立野みまもりキーホルダーの作成 ・地域行事パンフレット（仮称）の作成
------	---

定例会の有無	—
--------	---

平均利用者数・参加者数	—
-------------	---

具体的な取り組み

<小立野みまもりキーホルダー取組概要>

- ①利用希望者は小立野社協または地域包括支援センターとびうめで登録申込書を記入しキーホルダーを受け取ります。
- ②申込者の情報を登録先（小立野社協と地域包括支援センターとびうめ）が保管・管理します。
- ③キーホルダーには登録番号と登録先電話番号が記されており、緊急時は登録先に登録番号を伝えることで登録先が申込者の緊急連絡先と橋渡しを行います。

活動の様子



地域包括支援センターとびうめと地区社協窓口で受付して、交付しています。



地域安心生活支え合い事業
小立野みまもりキーホルダー
 ご要領の方へ

「もしもの」のための（事故や災害、病気など）連絡先を書いたものを身につけておきたい。けれど、個人情報にかかわることだから心配だな・・・そんなときのために持ち歩ける「小立野みまもりキーホルダー」に登録してみませんか？

これが、キーホルダーの実物です。裏面には登録番号の記載のみ、個人情報等の心配はありません。書袋持ち歩くもの携帯がばい、杖などにつけておきます。指輪でピカッと光るすぐれもの！

サイズ6センチ×6センチ×2ミリ
 後ろに、一人ひとりの登録番号を記入

もしものときは
 登録とびうめ | こだつの社協
 076-231-3377 | 076-264-0004

安心安全

- ① 対象
 ☆小立野地区にお住いの65歳以上の方
 ☆事前に登録申し込みが必要
- ② 登録方法
 ☆登録窓口で、登録申込書（緊急時あんしんシート）を記入して名簿登録
 ☆自宅に持ち帰った緊急時あんしんシートを冷蔵庫等に張り付けておく
 ☆変更時または年に一度（誕生日）に情報を更新する
- ③ 登録内容
 ☆緊急時あんしんシートの内容になります
 ・住所、電話番号、名前、生年月日、性別、血液型
 ・かかりつけ病院、病名、服薬内容、アレルギーの有無
 ・第1連絡先、第2連絡先 ☆連絡先になる人には了解をとっておいてね
 ・その他（救急隊に伝えたいこと、民生委員やケアマネなど）
- ④ 使い方
 ☆もしものとき（事故や災害、病気など）に電話を受けた登録先が問い合わせに応じ、登録番号を元に名簿登録した連絡先の方との橋渡しを行います。
- ⑤ お申込み ☆ どちらでもかまいません

安全都市地域包括支援センターとびうめ 預備町2番1号 (076) 231-3377
 小立野社会福祉協議会 小立野4丁目7番51号 (076) 264-0004

小立野社会福祉協議会

<ボランティア・利用者の声>

- ・ こういう形で緊急連絡先を伝える手段があると個人情報が守られるので助かります。
- ・ 普段から連絡がとれる地区社協が窓口なので安心感があります。
- ・ 手軽さと安心感がちょうど良いです。

課題・今後の展望

<アピールポイント>

みまもりキーホルダーは個人情報に対する不安を除きながら、もしもの時に地区社協・地域包括支援センターという常設窓口が橋渡し役になる安心感を作ることができています。また、民生委員の声かけのきっかけとしても活用されています。

<今後の展望>

コロナ禍で、人のつながりの大切さを実感しています。コロナに負けず、見守り活動をより一層充実させるため、地域内で人の交流を促す「地域行事パンフレット（仮称）」作成に向けて準備しています。



小立野地区地域福祉支援
 コーディネーター
 新谷真由美氏・福村春二氏

問い合わせ

小立野社会福祉協議会 TEL 076-264-0004

作成日 令和3年12月

作成者 宮田 亮平

十一屋地区 コミュニティカフェいんぎ楽っと

概況

開始時期	平成29年3月	活動場所	十一屋生きがい交流館
------	---------	------	------------

ボランティア数	15名程	利用料・参加費	100円（コーヒー代）
---------	------	---------	-------------

活動日時	毎月第1土曜日 13:30~15:00
------	---------------------

活動対象	十一屋地区にお住まいの65歳以上の方
------	--------------------

活動内容	季節の歌、地元ボランティアによる企画等
------	---------------------

定例会の有無	無
--------	---

平均利用者数・参加者数	25~30名程
-------------	---------

具体的な取り組み

事業を始めるにあたってアンケート調査を実施。『話し相手がほしい』という回答が多数あったので、地域サロンの会場とは別ブロック（十一屋、若草、新若草、草和会の4町会）で集いの場を作ることになりました。ボランティアグループ“たすけ♡（あい）たい”のみなさんは4町会にお住まいで、カフェのお手伝いに自ら参加を希望して下さった方たちです。

活動の様子



<ボランティア・利用者の声>

・参加者の「楽しかった！」という声を聞くととても嬉しく、次の企画を考えるのも楽しいです。みんなの「楽しいよ(^)」の聲が広がって行って参加者の増加につながり、これまで以上に盛り上がっていくと良いなと思います。(ボランティアTさん)

課題・今後の展望

<アピールポイント>

近所にお住まいの方々に結成された“たすけ♡(あい)たい”による地元ならではの企画が盛りだくさんです。

< 課 題 >

参加者の高齢化やコロナ禍によって参加できなくなった方々があります。特に以前から参加が少なかった男性の割合がさらに減ってきていることが課題です。

<今後の展望>

新しい参加者や新たなボランティアの担い手を増やして、どの年代の方も抵抗なく、楽しく参加できる場にしていきます。



十一屋地区社協会長
高田 千恵子 氏

問い合わせ

十一屋地区社会福祉協議会 TEL 076-244-1132

作成日 令和3年12月

作成者 野口 茉衣

菊川地区 コミュニティカフェてと手とて

概況

開始時期	① 平成31年2月 ② 令和3年4月	活動場所	① リバーサイド ② オープンスペースあさひ
------	-----------------------	------	---------------------------

ボランティア数	① 7名 ② 9名	利用料・参加費	100円
---------	--------------	---------	------

活動日時	① 毎月第2土曜日 13:30~15:00 ② 毎月第3土曜日 13:30~15:00
------	--

活動対象	菊川地区にお住まいの65歳以上の方
------	-------------------

活動内容	茶話会
------	-----

定例会の有無	無（活動後、簡単に反省会）
--------	---------------

平均利用者数・参加者数	① 15名程度 ② 12名程度
-------------	--------------------

具体的な取り組み

地域の方々が互いに誘いあい気軽にご参加いただけるように、あえてテーマを設けず、井戸端会議のような自由な時間を楽しんでもらうことがこのカフェの特徴です。ボランティアの方々のアイデアを取り入れながら活動しており、途中からからほぐし処を設けました。ハンドマッサージをしながら参加者お一人おひとりとお話する、癒しとコミュニケーションの時間となっています。

活動の様子



<ボランティア・利用者の声>

- ・ハンドマッサージを受け、たくさんお話もできて本当に充実した時間を過ごせました。月に1度の開催をとっても楽しみにしています。
- ・「参加してよかった」「楽しかった」という声は何よりの励みです。

課題・今後の展望

<アピールポイント>

令和3年4月、対象エリアを新しくして「オープンスペースあさひ」を利用して、「コミュニティカフェ てと手とて」を新規オープンいたしました。近隣の方々や民生委員児童委員、まちぐるみ福祉活動推進員などつながりを持てる場です。みなさん和やかな雰囲気を楽しんでいます。

< 課 題 >

参加者が固定化しつつあるため、PR方法を検討し、新たな参加者を増やしていきたいと思えます。

<今後の展望>

年に数回、季節に応じた形で茶話会+αの内容を盛り込めたらと考えています。新たな拠点も検討中です。



菊川地域安心生活支え合い事業
サポーターのみなさん

問い合わせ

菊川社会福祉協議会 TEL 076-265-6053

作成日 令和3年12月

作成者 野口 茉衣

菊川地区 野菜市

概況

開始時期	令和3年6月	活動場所	永井善隣館
------	--------	------	-------

ボランティア数	8名	利用料・参加費	
---------	----	---------	--

活動日時	6～10月 第3金曜日 11:00～12:00		
------	-------------------------	--	--

活動対象	菊川地区にお住まいの方		
------	-------------	--	--

活動内容	農園から仕入れた新鮮な野菜、城南ベーカリーのパンを販売		
------	-----------------------------	--	--

定例会の有無	無（活動後、簡単に反省会）		
--------	---------------	--	--

平均利用者数・参加者数	20名程度		
-------------	-------	--	--

具体的な取り組み

コロナ禍でも安心安全に実施できる地域交流として、三密を避け、永井善隣館の玄関前で野菜市を開始しました。農園から直接仕入れた旬のお野菜と城南ベーカリーのパンが並びます。季節の採れたて野菜を販売するため、どんな野菜が並ぶかは当日のお楽しみです。

活動の様子



<ボランティア・利用者の声>

- ・近所で新鮮なお野菜を買うことができありがたいです。コロナ禍でなかなか会えなかった友人とも久々に会うことができ、会話が弾みました。月一の楽しみになっています。(利用者)

課題・今後の展望

<アピールポイント>

気軽に参加しやすい活動で、笑顔や会話が広がっています。地域の方々の元気の源になることを願っています。

<課題>

買いに来ていただいた方々に出来るだけ行き届くように仕入数を考えていきたいと思えます。

<今後の展望>

コロナ禍で家にこもり、人との交流が少なくなった方々にも外出のきっかけとして足を運んでもらいたいです。 サポーターのみなさん



菊川地域安心生活支え合い事業

問い合わせ

菊川社会福祉協議会 TEL 076-265-6053

作成日 令和4年1月

作成者 野口 茉衣

崎浦地区

崎浦さわやか隊

概況

開始時期	平成30年12月	活動場所	各まちぐるみ福祉 活動推進チーム単位
------	----------	------	-----------------------

ボランティア数	22名	利用料・参加費	無料
---------	-----	---------	----

活動日時	・原則月1回以上の安否確認訪問 ・まちぐるみ福祉活動推進チーム単位で随時		
------	---	--	--

活動対象	町内の一人暮らし高齢者や高齢者のみ世帯等で見守り等の関わりを希望する方		
------	-------------------------------------	--	--

活動内容	安否確認のための自宅訪問やゴミステーション・移動スーパーでの買い物時の見守り活動等		
------	---	--	--

定例会の有無	年に2回程度
--------	--------

平均利用者数・参加者数	—
-------------	---

具体的な取り組み

まちぐるみ福祉活動推進チーム単位で、見守り等が必要と思われる高齢者とボランティアのマッチングを行っています。

ボランティアは安否確認につながる自宅訪問やゴミ捨て時の見守り等の活動で対象者と関わっています。対応に悩んだ時は民生委員・まちぐるみ福祉活動推進員が対応協力する仕組みになっています。

活動の様子



【移動スーパー買い物時の見守り】



【自宅訪問で安否確認】

ご近所でちょっとした
ボランティアしませんか？

大募集

崎浦地区社会福祉協議会では、地域にお住いのひとり暮らしやご夫婦のみの高齢者の方等が、安心して暮らし続けることができるよう、向こう三軒両隣の関係の中で支え合うボランティア、「崎浦さわやか隊」メンバーを募集します。

「できる範囲で
ご近所の役に立ってみたいな」
「これを機に地域デビューだ」
「お話し相手なら私もできるかも」

動機は気軽な気持ちで結構です。
ボランティアと一緒に崎浦地区を盛り上げましょう！

※本活動は無報酬のボランティア活動になります。

ボランティアの内容
◆日々のあいさつ
◆お話し相手
◆できる範囲のお手伝い
内容は一括に考えます！

家族で関わる
ファミリーボランティアも大歓迎！

＜ボランティア活動までの流れ＞

- ① 申し込み
ボランティアに関心のある方は、各町会担当の民生委員またはまちぐるみ福社活動推進員にお声かけください。
- ② 登録
崎浦地区社協がボランティア保険の加入と名札の発行をします。
- ③ 高齢者との
顔合わせ
担当民生委員・まちぐるみ福社活動推進員が間に入って、ボランティアに来てほしい高齢者と、ボランティアになった方の顔合わせを行います。
活動内容や日時についても相談して決めましょう。
- ④ 活動開始
ボランティア活動開始です。何か困った時は、民生委員やまちぐるみ福社活動推進員がフォローします！

（お問合せ先）崎浦地区社会福祉協議会事務局（金沢市小浜町2丁目41-36 1474 福祉会内）
☎076-231-6851 ※担当民生委員等がわからない人はお問い合わせください。

＜ボランティア・利用者の声＞

- ・できる範囲で見守りに関わっているため、大変さは感じていません。
- ・普段からの町内のお付き合い程度の活動なので、続けていきやすいです。
- ・何かあったら民生委員さんが相談にのってくれるので安心感があります。

課題・今後の展望

＜アピールポイント＞

活動が浸透し、気になる方の情報を提供してもらえたり、さわやか隊のメンバーの活動に共感し、メンバーが増員したりと活動を継続していくことで体制の強化につながっています。

＜課題＞

コロナの影響もありニーズが減少し、ボランティア活動が停滞気味になっているため、ニーズを改めて掘り起こしていく必要があります。

＜今後の展望＞

楽しく活動してもらえるようにボランティアの応援体制を充実していきます。



崎浦地区社協会長

林 勇三 氏

問い合わせ

崎浦地区社会福祉協議会 TEL 076-231-6851

作成日 令和3年12月

作成者 宮田 亮平

内川地区

支え合いの仕組みづくりの検討

概況

開始時期	令和3年度	活動場所	内川地区全域
------	-------	------	--------

ボランティア数	—	利用料・参加費	—
---------	---	---------	---

活動日時	今後検討を進める
------	----------

活動対象	内川地区にお住まいの方々
------	--------------

活動内容	町会や集落単位での支え合いの仕組みを検討
------	----------------------

定例会の有無	—
--------	---

平均利用者数・参加者数	—
-------------	---

具体的な取り組み

従来から町会ごとに、町会長、民生委員・まちぐるみ福祉活動推進員、ボランティアで協力して困りごとを抱える人のお手伝いをしてきました。その関係を活かして、向こう三軒両隣のつながりで町会内の問題を解決する仕組みを強化することを目的に取り組み始めました。今後、アンケート調査を実施して困りごとを把握し、内川地区でどのような助け合いの仕組みが必要か、更なる検討を進めていきます。

活動の様子

近隣同士の助け合いが
根付いています



更なる助け合いの
仕組みを検討中

<ボランティア・利用者の声>

- ・昔から続くご近所のつながりの中で、“身近なところに頼める人がいる”という環境は、生まれ育った地域で長く安心して暮らしていくための大きなポイントになっていると思います。世代問わず、お互い様の関係ができあがっています。(地域住民Kさん)

課題・今後の展望

<アピールポイント>

昔からある向こう三軒両隣での支え合いの関係、近所での助け合いの関係を活かして、更に充実した地域生活が送れるような仕組みを検討します。高齢者も地域の支え手として活躍できる地域を目指します。

< 課 題 >

今後、高齢化率が更に高まることが予想されます。次世代の担い手の確保が課題となっています。

<今後の展望>

困りごとや必要なサービスを把握するため、アンケート調査を実施し、内川地区での支え合いの仕組みの更なる展開を検討します。



内川地区社協 西田会長
元尾副会長、吉田副会長
内川地区民児協 新村会長

問い合わせ

内川地区社会福祉協議会 TEL 076-247-2263

作成日 令和4年1月

作成者 野口 茉衣

泉野地区 すこやかカフェ

概況

開始時期	平成31年4月	活動場所	泉野出町三和会分館
------	---------	------	-----------

ボランティア数	5名	利用料・参加費	100円
---------	----	---------	------

活動日時	毎月第3火曜日 10:00~11:30
------	---------------------

活動対象	泉野地区にお住まいの方
------	-------------

活動内容	健康教室・講座、脳トレ、体操、茶話会等
------	---------------------

定例会の有無	有
--------	---

平均利用者数・参加者数	15名程
-------------	------

具体的な取り組み

もともと泉野出町三和会分館では、地域包括支援センターながさかのオレンジカフェが開催されていました。会場の変更に伴って、この会館でのカフェの実施は終了することになったのですが、参加者から「せっかくの集いの場を残してほしい！」という要望が多数寄せられたことをきっかけに、コミュニティカフェを立ち上げることとなりました。

活動の様子



<ボランティア・利用者の声>

・いろいろな人と出会ったり話したりできることは、参加者にとってもボランティアにとっても良い刺激になっています。こういった集いの場になかなか出てこられない人にもぜひ参加してもらって、もっとつながりの輪を広げていきたいです。(ボランティアYさん)

課題・今後の展望

<アピールポイント>

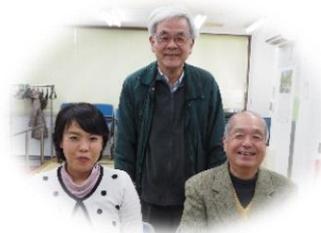
ほっとコミュニティ互近助隊（地域ボランティア）の皆さんが楽しく福祉の学習に取り組んでいます。

< 課 題 >

継続していく上で、自主財源の確保が大きな課題です。また、会場の増設を目指しているが、ボランティアの担い手不足も悩みのひとつです。

<今後の展望>

ボランティアの増員に向けたPR活動をすすめて盛り上げていきたいです。また、カフェを『気軽に足を運べる相談の場』として進展させることを目指します。



泉野地区社協
北浦会長、守田事務員
紙尾氏（民生委員）

問い合わせ

泉野地区社会福祉協議会 TEL 076-241-3316

作成日 令和3年12月

作成者 野口 茉衣

長坂台地区 結ネットの活用

概況

開始時期	令和3年9月	活動場所	長坂台地区全体
ボランティア数	—	利用料・参加費	無料
活動日時	随時		
活動対象	長坂台地区にお住まいの方		
活動内容	情報共有、見守り活動		
定例会の有無	不定期		
平均利用者数・参加者数	登録者 60 名 (R4 年 1 月現在)		

具体的な取り組み

地域ICTプラットフォーム『結ネット』の活用を開始しました。まずは、民生委員児童委員・主任児童委員の連絡ツールとしてこれまでより手軽に、そして迅速に情報共有ができるようになりました。会議日程や研修会の案内のほか、熱中症予防や悪天候が予想されるときへの注意喚起などにも利用します。また、見守り世帯への情報発信や、運営するブログの閲覧、地域包括支援センターながさかとの情報交流を進めています。

活動の様子

【結ネットのメニュー画面】 【会長から新年のご挨拶が届きました】



<ボランティア・利用者の声>

- ・結ネットの活用により、情報共有や出欠確認等が簡単に行えるようになりました。
- ・地域団体・行事への参加や協力のハードルが下がるように思います。

課題・今後の展望

<アピールポイント>

従来の方法では手間の多かった情報共有も、アプリを通して素早く、正確に行うことができるようになりました。連絡も手軽に取れるため、日々の連携もスムーズです。

< 課 題 >

広く住民に知ってもらうことと、登録が面倒に感じる心理的ハードルを超えて登録してもらうために、有効な広報活動を行っていくことが課題です。

<今後の展望>

結ネットを広げ、校下全体の活動をサポートしていきます。また、アンケート調査の結果を活かし、ニーズ把握と支え合いの仕組みづくりを検討します。



長坂台地区社協会長
斎藤 寛 氏

問い合わせ

長坂台地区社会福祉協議会 TEL080-7574-2255

作成日 令和4年1月

作成者 野口 茉衣

野町地区 憩いの場

概況

開始時期	令和3年 3月	活動場所	野町社会福祉協議会 事務所
------	---------	------	------------------

ボランティア数	—	利用料・参加費	無料
---------	---	---------	----

活動日時	随時
------	----

活動対象	野町地区にお住まいの方
------	-------------

活動内容	交流・憩いの場の活用
------	------------

定例会の有無	—
--------	---

平均利用者数・参加者数	10人前後/月
-------------	---------

具体的な取り組み

野町社会福祉協議会事務局に併設されている部屋を、ボランティアの会の作品作りやグラウンドゴルフの団体のPC教室など、集いの場・憩いの場として活用していただいています。ネットワーク環境も整っており、ZOOMでの研修会や会議の際に利用することも可能です。

活動の様子



<ボランティア・利用者の声>

- ・少人数で集まり作業する場を提供して頂き、とても助かっています。
- ・ネット環境も整っているなので、会議やパソコン勉強もできて便利です。

課題・今後の展望

<アピールポイント>

地区社協の部屋を有効活用するためにこの活動を始めました。
住民同士の交流が生まれる居場所となっています。

< 課 題 >

コロナ対策として、現在は団体での利用に限っています。
誰でも気軽に利用できるよう、環境整備が必要です。

<今後の展望>

ふらっと来て交流できる憩いの場として活用してもらえよう、楽しめるツール（将棋や囲碁など）の設置も進めたいです。



野町地区社協会長
杉岡 利正 氏

問い合わせ

野町社会福祉協議会 TEL 076-241-3204

作成日 令和4年1月

作成者 野口 茉衣

野町地区 見守り電球

概況

開始時期	令和3年8月	活動場所	野町地区全域
------	--------	------	--------

ボランティア数	31人	利用料・参加費	無料 令和4年度から有償
---------	-----	---------	-----------------

活動日時	随時
------	----

活動対象	野町地区にお住まいの一人暮らし高齢者
------	--------------------

活動内容	見守り電球の設置によるさりげない見守り活動
------	-----------------------

定例会の有無	随時
--------	----

平均利用者数・参加者数	20名（電球設置者）
-------------	------------

具体的な取り組み

結ネットと見守り電球を連動させ、8時間の連続点灯、24時間の連続消灯があった場合に事前に登録しておいた家族や町会長、民生委員に通知が届くシステムです。

異常を知らせる通知が届いた際、家族、町会長、民生児童委員がチームを組んで安否確認を行います。

活動の様子



IoT 電球を使った高齢者見守りのイメージ



<ボランティア・利用者の声>

- ・アラームが鳴った時、すぐに民生委員が連絡してくれてうれしかった。地域で見守ってもらえてありがたい。温かい地域だと感じる。(利用者・家族)
- ・見守りチーム間でのコミュニケーションが円滑になり、連携がスムーズになった。(協力者)

課題・今後の展望

<アピールポイント>

高齢者がいつまでも安心して暮らし続けられるよう、地域全体での見守りの仕組みづくりを行っています。

< 課 題 >

野町地区でも、単身高齢者は増加傾向にあります。誰かに負担が偏らない支援体制を継続して検討したいです。

<今後の展望>

更に利用者、協力者を増やし、野町地区全体に安心安全の体制を広げていきたいです。



野町地区社協会長
杉岡 利正 氏

問い合わせ

野町社会福祉協議会 TEL 076-241-3204

作成日 令和4年1月

作成者 野口 茉衣

野町地区 避難行動要支援者マップ

概況

開始時期	R3年11月	活動場所	野町会館
------	--------	------	------

ボランティア数	町会長、防災士、 民生委員・児童委員	利用料・参加費	無料
---------	-----------------------	---------	----

活動日時	—
------	---

活動対象	避難行動要支援者名簿掲載者
------	---------------

活動内容	災害時、手助けが必要な方がどこに住んでいるのか、町会長と民生委員・児童委員が協働でマップ上に整理をしました。
------	--

定例会の有無	—
--------	---

平均利用者数・参加者数	60人
-------------	-----

具体的な取り組み

野町防災訓練にて、町会長と民生委員・児童委員、防災士の協働で避難行動要支援者マップを作成しました。避難行動要支援者名簿に掲載されている方が、災害時自力避難可能か支援が必要かを検討し、地図に色別にマーキングしました。また、R2年度のまちぐるみ福祉活動推進員研修では「一人暮らし高齢者」「高齢者世帯」等をマップ上に色分けしたみまもりマップも作成しました。

活動の様子



<ボランティア・利用者の声>

- ・民生委員・児童委員として、複数の町会を担当しています。気にかけている方の情報を町会長と共有でき、とても心強くなりました。
- ・これまで把握できていなかった方もいたため、これからの生活の中で挨拶などを交わし、関係づくりをしていこうと思います。

課題・今後の展望

<アピールポイント>

町会長と民生委員・児童委員がともに作業をすることで、相互に共通認識を持つことができ、円滑な連携にもつながります。

< 課 題 >

民生委員・児童委員や町会長に負担が偏らないよう、協働相手を広げていきたい一方、個人情報を取り扱う難しさを感じています。

<今後の展望>

日々の生活の中や今後の防災訓練などで、作成したマップをどのように活用できるか、更なる検討を進めます。



野町地区社協会長
杉岡 利正 氏

問い合わせ

野町社会福祉協議会 TEL 076-241-3204

作成日 令和4年1月

作成者 野口 茉衣

中村地区

中村地区ボランティアの会 ～いこいの広場編～

概況

開始時期	平成30年10月	活動場所	中村町善隣館 他
------	----------	------	----------

ボランティア数	10名程	利用料・参加費	無料
---------	------	---------	----

活動日時	地域行事（いこいの広場、サロン、カフェ等）の開催時 その他依頼があったとき		
------	--	--	--

活動対象	中村地区にお住まいの高齢者 他		
------	-----------------	--	--

活動内容	地域行事の運営スタッフ、話し相手、見守り・声かけ 等		
------	----------------------------	--	--

定例会の有無	有（活動後に反省会と次回打合せ）		
--------	------------------	--	--

平均利用者数・参加者数	20～30名		
-------------	--------	--	--

具体的な取り組み

中村地区では、ボランティア人材の発掘や高齢者の居場所・生きがいづくりを目指しています。当事業で結成された「中村地区ボランティアの会」が、中村町善隣館が実施する『ぜんりん広場』をはじめ、善隣館で行われている地域行事等のスタッフとして参加し、活動の場を広げています。『ぜんりん広場』は、地域の高齢者と子どもの「集いの場」となっています。新たに3名の地元の講師を発掘し、「英語で遊ぼう!!」と題して、英語を使ってさまざまなゲームを行い、交流を深めています。

活動の様子



<ボランティア・利用者の声>

- 『英語で遊ぼう!!ぜんりん広場』では、英語を使っていろいろなゲームを楽しんでいます。名前や年齢を英語で質問したり、絵に描かれた果物の英単語を伝えたり、子どもも高齢者の方も楽しく英語で触れ合うことができます。少しずつですが、英語での会話がすすんでいます。(ボランティア)

課題・今後の展望

<アピールポイント>

『ぜんりん広場』は、孫と同居する高齢者・祖父母と同居する子どもが減っている中で、高齢者と子どもがふれあえる貴重な交流の場となっています。

<課題>

男性の参加が少ないので、男性高齢者の外出のきっかけづくりになるような企画を考案中です。さらに、“元気な高齢者”を増やすことを目指しています。

<今後の展望>

中村町善隣館では健康マージャンも継続しています。ここでもボランティアの会が活躍中です。マージャンをきっかけに集まった方々にも、ボランティアへの参加をすすめていきたいと思っています。



中村地区社協会長
森田 輝雄 氏

問い合わせ

中村地区社会福祉協議会 TEL 076-247-4447

作成日 令和4年2月

作成者 小鍛治 康生

弥生地区

アンケート調査による助け合いの仕組みづくり

概況

開始時期	令和2年9月	活動場所	—
------	--------	------	---

ボランティア数	—	利用料・参加費	—
---------	---	---------	---

活動日時	—
------	---

活動対象	概ね75歳以上の高齢者がいる世帯
------	------------------

活動内容	アンケート調査を実施し、生活上の困りごとや支援希望等を把握。今後の支え合い活動の検討材料にしました。
------	--

定例会の有無	—
--------	---

平均利用者数・参加者数	—
-------------	---

具体的な取り組み

令和2年9月にアンケート調査を実施し、弥生地区の高齢者が抱える困りごとを把握しました。話し相手がほしいという希望や、蛍光灯の交換など日々のちょっとした困りごとの手助けがあるといいというご意見をもとに、今後の弥生地区での助け合いの仕組みを検討します。

活動の様子

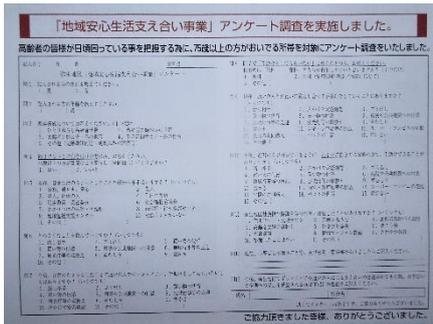
まちぐるみ福祉活動推進員研修会



推進員にアンケート調査を依頼



誰がどのエリア
調査する？



弥生地区の
電気屋さんで電球交換
の仕組みを作ろう

<ボランティア・利用者の声>

- アンケートでは、困りごとや不安などの悩みが把握できたとともに、ボランティア希望の声も多く寄せられ、地域の温かさを感じました。

課題・今後の展望

<アピールポイント>

アンケートの配布・回収は民生委員児童委員とまちぐるみ福祉活動推進員が 1 軒 1 軒訪問し行いました。88%を超える高い回収率となり、680 世帯の方々のお声を集めることができました。

< 課 題 >

コロナ禍で思うように地域活動ができず、ボランティア募集など今後の活動の展開時期を計っています。

<今後の展望>

地区の電気屋さんと連携し、まずは電球交換の要望に対応できる仕組みづくりを行います。今後、その他の課題に合ったボランティアのマッチング体制も整えていきたいです。



弥生地区社協会長
田辺 一幸氏

問い合わせ

弥生地区社会福祉協議会 TEL 076-243-7560

作成日 令和4年1月

作成者 野口 茉衣

新神田地区

災害時に備えた日頃の見守り関係

概況

開始時期	平成31年4月	活動場所	新神田地区全域
------	---------	------	---------

ボランティア数	77名	利用料・参加費	—
---------	-----	---------	---

活動日時	随時
------	----

活動対象	新神田地区にお住いの方
------	-------------

活動内容	地域全体で災害時の避難誘導や声かけができるように日頃から地域で支え合う関係を目指します。
------	--

定例会の有無	月2回
--------	-----

平均利用者数・参加者数	—
-------------	---

具体的な取り組み

防災の一環として、見守りマップを作成し、ひとり暮らし・要支援者を町会ぐるみで把握し共有しています。

町会等各種関係者と連携することで、非常時だけでなく、日頃から気になる方を見守るための関係づくりを目指しています。

活動の様子



<ボランティア・利用者の声>

- ・改めて、防災に関して意識を向上することができました。
- ・要支援者の取りこぼしがないように、向こう三軒両隣の関係が大切だと思います。

課題・今後の展望

<アピールポイント>

地区内で防災に対する意識を共有することを目指します。

町会に加入していない方も対象にしていきたいと考えています。

< 課 題 >

コロナ禍での災害対策も必要になり、一人一人が防災意識を持つことが大切です。

<今後の展望>

継続していくことで、対象者本人も理解しつつ地域全体で見守っていきたいです。また、災害時には避難誘導や声かけなど地域で支え合う仕組みにしていきたいです。



新神田地区社協会長
鏑木 芳枝 氏

問い合わせ

新神田地区社会福祉協議会 TEL 076-291-0025

作成日 令和4年1月

作成者 畔田 晴美

米泉地区

避難行動要支援者個別支援計画作成事業

概況

開始時期	令和3年7月	活動場所	米泉校下全域
ボランティア数	民生委員 15 名	利用料・参加費	—
活動日時	年 1 回各町会で情報共有、避難誘導訓練実施		
活動対象	米泉校下にお住いの避難行動要支援者		
活動内容	災害時の避難誘導・声かけのための見守り関係づくり		
定例会の有無	年 1 回定例会議を予定		
平均利用者数・参加者数	避難行動要支援者 355 名 (2022 年 3 月時点)		

具体的な取り組み

米泉地区では、従来より結ネットの活用や民生委員による要支援者のマップ作成作業を通じて、福祉防災に関する取組みを進めていることから、令和3年度より災害時避難行動要支援者名簿活用モデル事業に取り組んでいます。

この取組みでは、民生委員が把握している要支援者情報を基に、特に避難誘導が必要と思われる方に対する地域支援者を町会・防災士と連携の上、選定・調整し、災害時を見据えた普段からの見守り関係づくりに取り組めます。

活動の様子



【全体説明会・町会長会議】



【地区全体要支援者マップ】

<ボランティア・利用者の声>

- ・防災について考え取組むことが日頃の見守り関係構築につながると思います。
- ・民生委員だけでなく、町会関係者・防災士と一緒に気になる方についてお話しすることが地域の連携を創り出すことにつながりますね。

課題・今後の展望

<アピールポイント>

6つの町会ごとに話し合いを進めることで、民生委員と町会関係者が共通の目的意識を持つことにつながります。

<課題>

当事者の意思を尊重した個別支援計画づくりが円滑に進むよう、町会（近所の）協力者調整が課題となります。

<今後の展望>

避難行動要支援者に対する避難誘導訓練を実施し、地区として日頃からの見守り関係づくりが大切であることを啓発していきたいと思えます。



米泉校下社協会長
山本 秀昭 氏
米泉校下民児協会長
平田 哲也 氏

問い合わせ

米泉校下社会福祉協議会 TEL 076-241-8924

作成日 令和4年2月

作成者 水橋 佑介

三馬地区 オアシスカフェ泉

概況

開始時期	令和3年4月	活動場所	西泉町会館
ボランティア数	18名	利用料・参加費	材料費200円
活動日時	毎月第3火曜日午前10時～11時30分		
活動対象	泉地区在住高齢者		
活動内容	講座・ゲーム・手芸等		
定例会の有無	不定期開催		
平均利用者数・参加者数	約16名		

具体的な取り組み

三馬校下では、これまで地域サロンの会場が公民館のみであったことから、公民館から距離のある泉地区の住民にとってつどいの場が不足しているとの声がありました。

この声を受け、泉地区の方が集まりやすい西泉町会館を利用して、毎月1回コミュニティカフェ「オアシスカフェ泉」を開催しています。新たに住民ボランティアも募集し、泉地区内の交流促進を図っています。

活動の様子



<ボランティア・利用者の声>

- ・「みんながワイワイおしゃべりできる場」になることが目標です。手芸は関係づくりの第一歩と考えています。(ボランティア)
- ・カフェにお誘いすることが見守りのきっかけにもなっています。(参加者)

課題・今後の展望

<アピールポイント>

毎回素敵な手作り品を企画し、参加されたみなさんは笑顔で帰宅されています。

<活動への思い・今後の展望>

令和3年度から公民館から遠い泉地区の方を対象に「オアシスカフェ泉」がオープンできたこと、大変嬉しく思っています。1日も早くコロナの心配なくみなさんが集える日が来ることを祈りながら、参加者のみなさんと共に充実した催しを考えていきたいと思ひます。



ボランティアの皆さん

問い合わせ

三馬地区社会福祉協議会 TEL 076-243-2734

作成日 令和3年12月

作成者 水橋 佑介

富樫地区 見守り・友愛訪問

概況

開始時期	令和元年7月	活動場所	富樫地区全域
ボランティア数	56名	利用料・参加費	無料
活動日時	年1回の関係者情報共有 + 対象者ごとに調整		
活動対象	富樫地区にお住いのひとり暮らし高齢者等		
活動内容	友愛訪問、見守り活動、ちょっとした生活支援		
定例会の有無	必要に応じて随時開催		
平均利用者数・参加者数	—		

具体的な取り組み

概ね町会単位で民生委員やまちぐるみ福祉活動推進員、包括が地図を囲み、気になる方の情報を共有しています。

共有した情報の中から、民生委員等が把握している近隣の関わりを希望する方について、主に民生委員・まちぐるみ福祉活動推進員が見守りやちょっとした生活支援を行う関係づくりを進めています。

活動の様子



<ボランティア・利用者の声>

- ・訪問してくださるのは嬉しいです。見守られていると安心感があります。
- ・いつも見守りで来て下さる方なら、なんでも相談できるので助かっています。

課題・今後の展望

<アピールポイント>

日常の支え合い活動等では情報の共有が肝要です。情報交換研修会開催等で意識の向上を図っています。

< 課 題 >

担い手も高齢化してきています。身近な地域の支援者を増やす取組みが必要となります。

<今後の展望>

住み慣れた住まいで生活を続けるには向こう三軒両隣はもちろん、町会の見守りも欠かせません。協力関係の構築に努め、安心安全の地域づくりを展開していきたいです。



富樫地区社協会長
平田 敏雄 氏

問い合わせ

富樫地区社会福祉協議会 TEL 076-241-5327

作成日 令和3年12月

作成者 水橋 佑介

伏見台地区

健康・介護予防教室

概況

開始時期	平成25年5月	活動場所	光明寺
------	---------	------	-----

ボランティア数	2名	利用料・参加費	無料 (内容により有料の場合も)
---------	----	---------	---------------------

活動日時	第3木曜日 14:00~16:00
------	-------------------

活動対象	高尾新町会に居住されている方
------	----------------

活動内容	軽い体操、フレイルチェック、散策、干支飾りの作成
------	--------------------------

定例会の有無	—
--------	---

平均利用者数・参加者数	約12名
-------------	------

具体的な取り組み

介護予防を地域に広めていきたいという気持ちから居場所の立ち上げを考えていたところ、町会でも高齢者の居場所づくりを考えていたため、協力して居場所を立ち上げました。

手足を動かす運動や脳トレを主に行いながら、おしゃべりを楽しむ居場所として、町会と連携しつつ運営しています。

活動の様子



<ボランティア・利用者の声>

- ・公民館に行くには少し遠くて諦めてしまうが、近所にこうした居場所があると行きやすいので助かっています。
- ・体を動かし、おしゃべりが楽しめるのでここに来るのが生きがいになっています。

課題・今後の展望

<アピールポイント>

老人会・町会と連携しながら、活動に取り組んでいます。

< 課題 >

参加者が固定化してきていることや担い手不足が課題になっています。

<今後の展望>

家に一人でのいるのではなく、ここに来れば仲間がいて、おしゃべりができる、その人にとって生きがいになる場所にしていきたいです。



地域福祉支援
コーディネーター
水上 紘宇 氏

問い合わせ

伏見台地区社会福祉協議会 TEL 076-243-3341

作成日 令和3年12月

作成者 水橋 佑介

四十万地区

町会単位の見守りネットワークづくり

概況

開始時期	令和4年度実施予定	活動場所	各町会単位
ボランティア数	各町会単位で調整	利用料・参加費	—
活動日時	対象者ごとに随時開催		
活動対象	地区にお住いのひとり暮らし高齢者等		
活動内容	対象者に対する見守り、声かけ活動する関係づくりを目指して防災に取り組む		
定例会の有無	地図を囲む情報共有会 や研修会を企画		
平均利用者数・参加者数	—		

具体的な取り組み

町会単位で見守り対象者に対する見守り・声かけを実施する関係づくりを推進するため、民生委員と町会長や婦人会等、各町会で見守りに協力できる関係者が集まり、地図を囲んで情報共有を行いたいと考えています。

その取り組みを推進するために、防災について考えることを通じて、関係者・団体間の関係づくりに取り掛かっています。

活動の様子



<ボランティア・利用者の声>

- ・まちぐるみ福祉活動推進員、婦人会等と情報を共有して対象者に寄り添い見守り、声掛けをして安心できる地域作りに取組みたい。(民生委員)

課題・今後の展望

<アピールポイント>

各団体が協働し見守り活動等を行う取組みを四十万地区に根付かせることが目標です。

<今後の展望>

当面は防災を切り口として、まちぐるみ福祉活動推進員と婦人会、婦人防火クラブのみなさんが一緒に受講する研修会を企画しています。

そのうえで、町会単位で支援が必要な方の情報等を共有し、日頃の見守りでできること等を話し合っていければと考えています。



四十万地区社協会長
北川 雄一 氏

問い合わせ

四十万地区社会福祉協議会 TEL 076-205-6043

作成日 令和3年12月

作成者 水橋 佑介

額地区

身近な地域を自分ごとに考える

概況

開始時期	令和4年度中	活動場所	概ね町会単位
ボランティア数	—	利用料・参加費	—
活動日時	—		
活動対象	町会内にお住いで地域活動に関心がある方		
活動内容	座談会・勉強会を開催し、身近な地域の現状や課題、今後のことについて話し合う機会を設ける		
定例会の有無	—		
平均利用者数・参加者数	—		

具体的な取り組み

令和3年度は地域サロン参加者や民生委員、地域サロン運営スタッフ等に地域の困り事や必要と思われる取組み等についてアンケート調査を実施しました。その結果、コロナ禍ということもあり、交流の機会の減少や関係性の希薄化等が気にかかることが見えてきました。

そこで、今後は住民にとって身近な単位（町会や民生委員担当地域）での話し合いを企画し、小さな単位で交流しつつ支え合いの仕組みづくりを検討します。

活動の様子



【サロンスタッフ打合せの様子】



<ボランティア・利用者の声>

- ・コロナウイルスの影響でサロン休止のため、人と話す機会が減りました。
- ・身近な地域で支え合い・見守りがあれば嬉しいと思います。

課題・今後の展望

< 課 題 >

新型コロナウイルスの影響によって、地域サロンを始め、地域行事の中止が相次ぎました。今後状況が好転する見通しがいつになるのかわかりませんが、できることを考えていきたいと思っています。

<今後の展望>

地域住民の生活基盤である町会単位の暮らしを再検討するために、交流の機会にもなるような話し合いの場を設け、楽しみながらも支え合いの進展につながるような取組みを進めていきたいと思っています。



額地区社協会長
宮川 勝典 氏

問い合わせ

額地区社会福祉協議会 TEL 076-259-6666

作成日 令和4年1月

作成者 水橋 佑介

扇台地区

町内見守りネットワーク構築

概況

開始時期	令和4年1月	活動場所	各町会
------	--------	------	-----

ボランティア数	—	利用料・参加費	—
---------	---	---------	---

活動日時	対象者に応じて調整
------	-----------

活動対象	ひとり暮らし高齢者等で近隣による見守りが必要な方
------	--------------------------

活動内容	身近な地域住民による定期的な声かけ等の見守りネットワークを民生委員および町会長等が協議のうえ構築する。
------	---

定例会の有無	今後検討
--------	------

平均利用者数・参加者数	—
-------------	---

具体的な取り組み

民生委員が把握しているひとり暮らし高齢者等の中で、定期的な声かけやちょっとした生活支援が必要な方について、身近な地域住民から見守り協力者を調整し、両者のマッチングに取り組む。

協力者の調整にあたっては、民生委員と町会長やまちぐるみ福祉活動推進員がマップの点検作業等を協働のうえ、調整にあたる予定。

活動の様子



<ボランティア・利用者の声>

- ・顔の見える範囲で見守りやお手伝いができる関係をあらためて作っていくことで、安心して暮らし続けることができる地域づくりにつながると考えています。

課題・今後の展望

<アピールポイント・今後の展望>

民生委員活動によって把握できた情報に基づきながら、町会長等と共有を図り向こう三軒両隣の関係の再構築を進めたいと考えています。

協力者として対象者の隣近所の方をお願いすることができれば、民生委員を始めとする従来からの見守りネットワークに加えて、より身近な単位の見守りネットワークづくりができると思っています。

この取組みは各町会1件ずつからでもいいので、ネットワークづくりによって一歩ずつ顔の見える地域づくりにつながることが期待しています。



扇台地区社協会長
石川 勇氏

問い合わせ

扇台地区社会福祉協議会 TEL 076-296-0606

作成日 令和3年12月

作成者 水橋 佑介



(地域安心生活支え合い事業) 住民同士の支え合い活動事例集

発行

金沢市社会福祉協議会・金沢市

問合せ

社会福祉法人 金沢市社会福祉協議会 地域福祉課
〒920-0864 金沢市高岡町7番25号 金沢市松ヶ枝福祉館内
TEL 076-231-3571 FAX 076-231-3560

金沢市 福祉健康局 福祉政策課
〒920-8577 金沢市広坂1丁目1番1号
TEL 076-220-2288 FAX 076-260-7192

※この事例集は、金沢市が実施する「地域安心生活支え合い事業」で取り組まれている各地区社会福祉協議会の事例をまとめたものです。

令和4年3月23日 第1刷発行